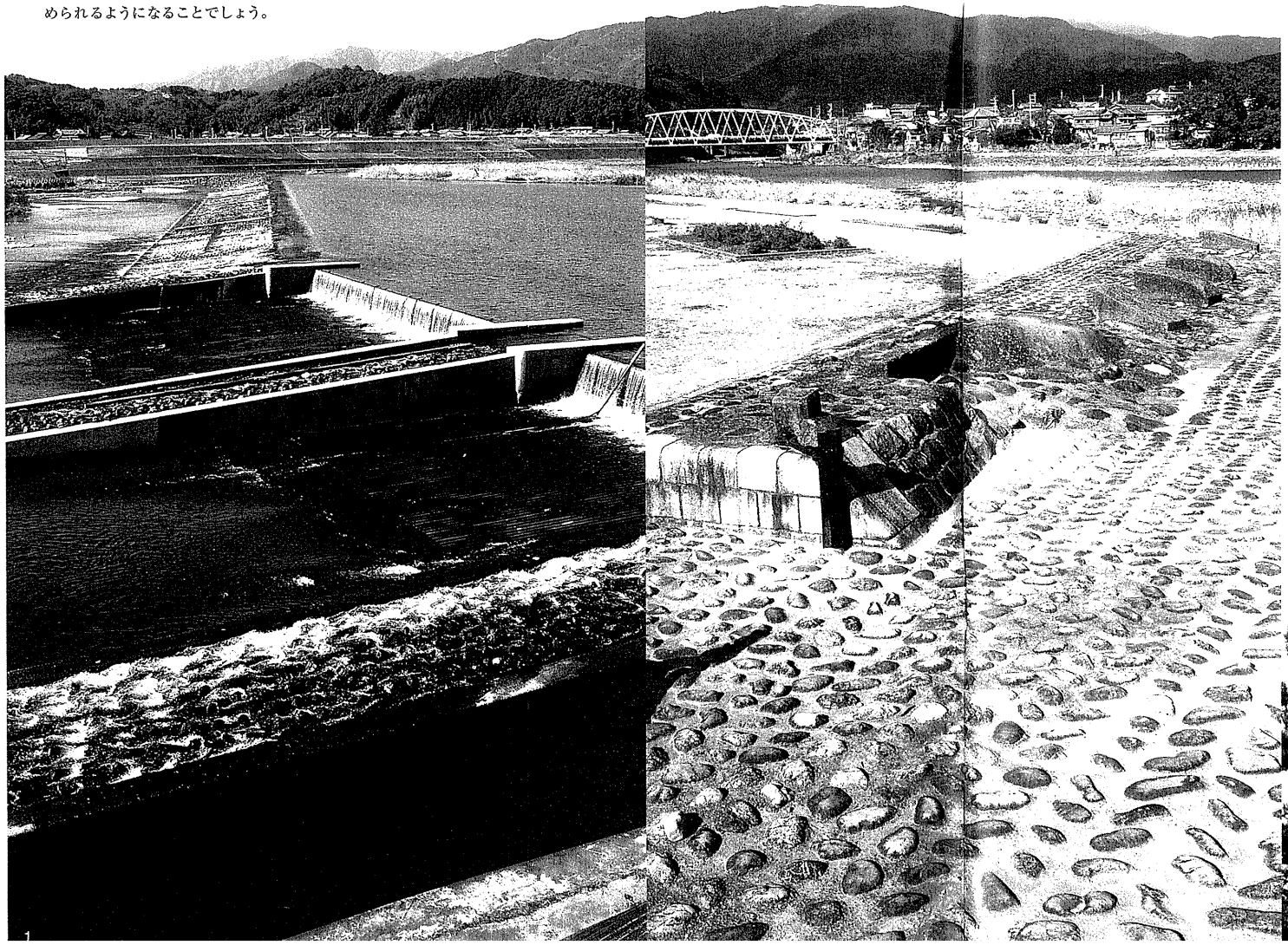
流域史蹟ガイド

はじめに

川は古くから人びとの生活に深く関わりを持ってきました。私達の先人達も川のほとりで生き、恵みの水を分かち、時には大自然の猛威をふるう激流から身を守る努力を続けてきました。このため、太古の昔から治水・利水・地域整備など数多くの事業を推進し、その内の幾つかは近代の改修を経て現在でも利用されています。

人びとは川とともに生き、豊かな流れに育まれた風土・文化が幾多の人材を輩出してきたと言ってもよいでしょう。この小冊子は、先人達の残した足跡を多くの人に知っていただくためにとりまとめたもので、仁淀川・物部川の中・下流域を中心に、高知市周辺まで範囲を広げて、治水・利水の遺構・史跡・文化遺産などを収めております。

このマップには「私達の身近に思いがけない歴史の証人がいた」、こんな発見をしていただけたら、という思いが込められています。マップを片手に歩いてみて下さい。きっと今までとは違う目でふるさとを、そして河川をながめられるようになることでしょう。



INDEX

地図 ……3
仁淀川 ……5
物部川 ……7
高知 ……9

仁淀川 NIYODO RIVER ……11

佐川町 SAKAWA-TOWN ……12
日高村 HIDAKA-VILLAGE ……13
いの町 INO-TOWN ……14
土佐市 TOSA-CITY ……17
春野町 HARUNO-TOWN ……21

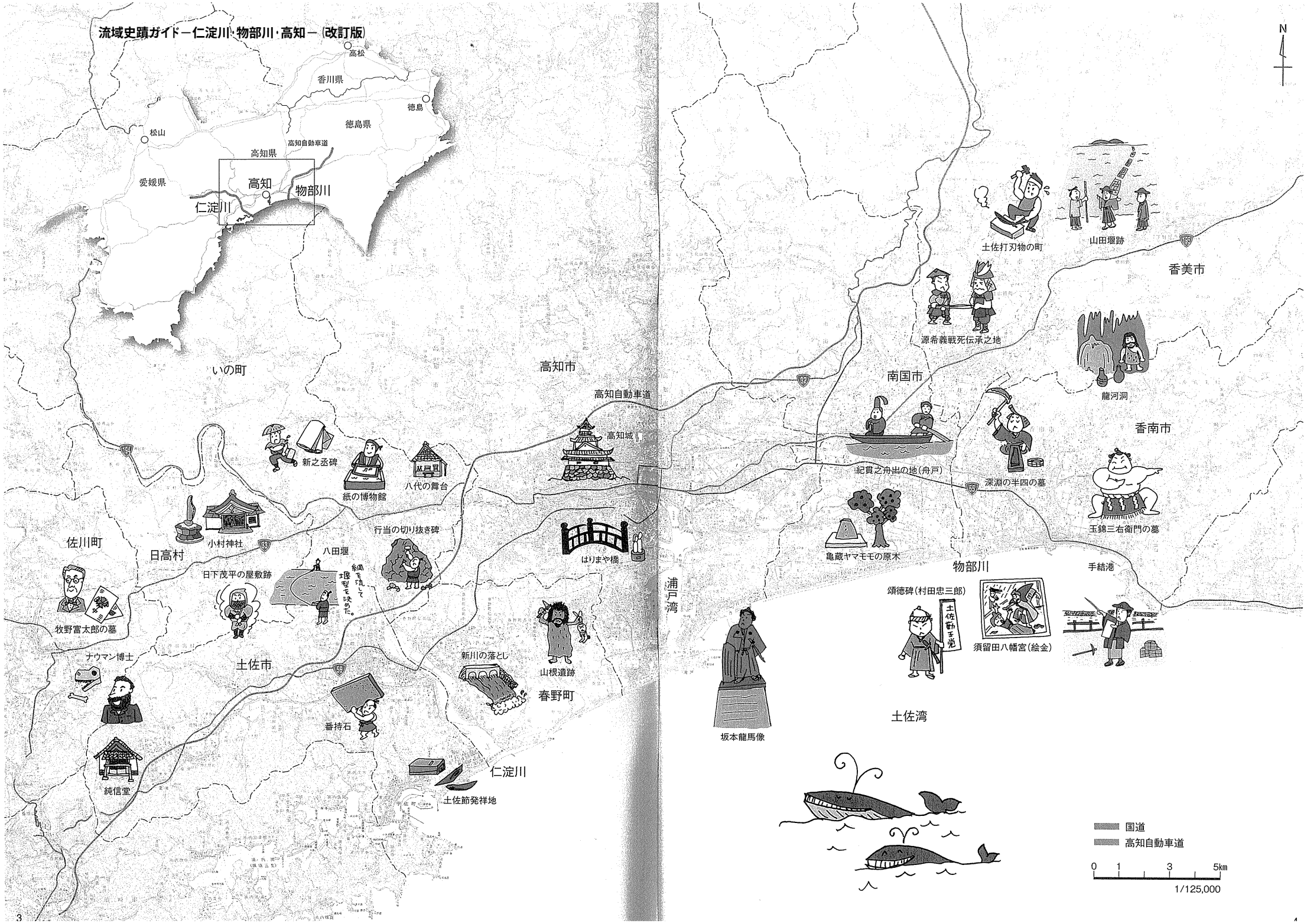
物部川 MONOBE RIVER ……23

南国市 NANKOKU-CITY ……24
香美市 KAMI-CITY ……27
香南市 KONAN-CITY ……30

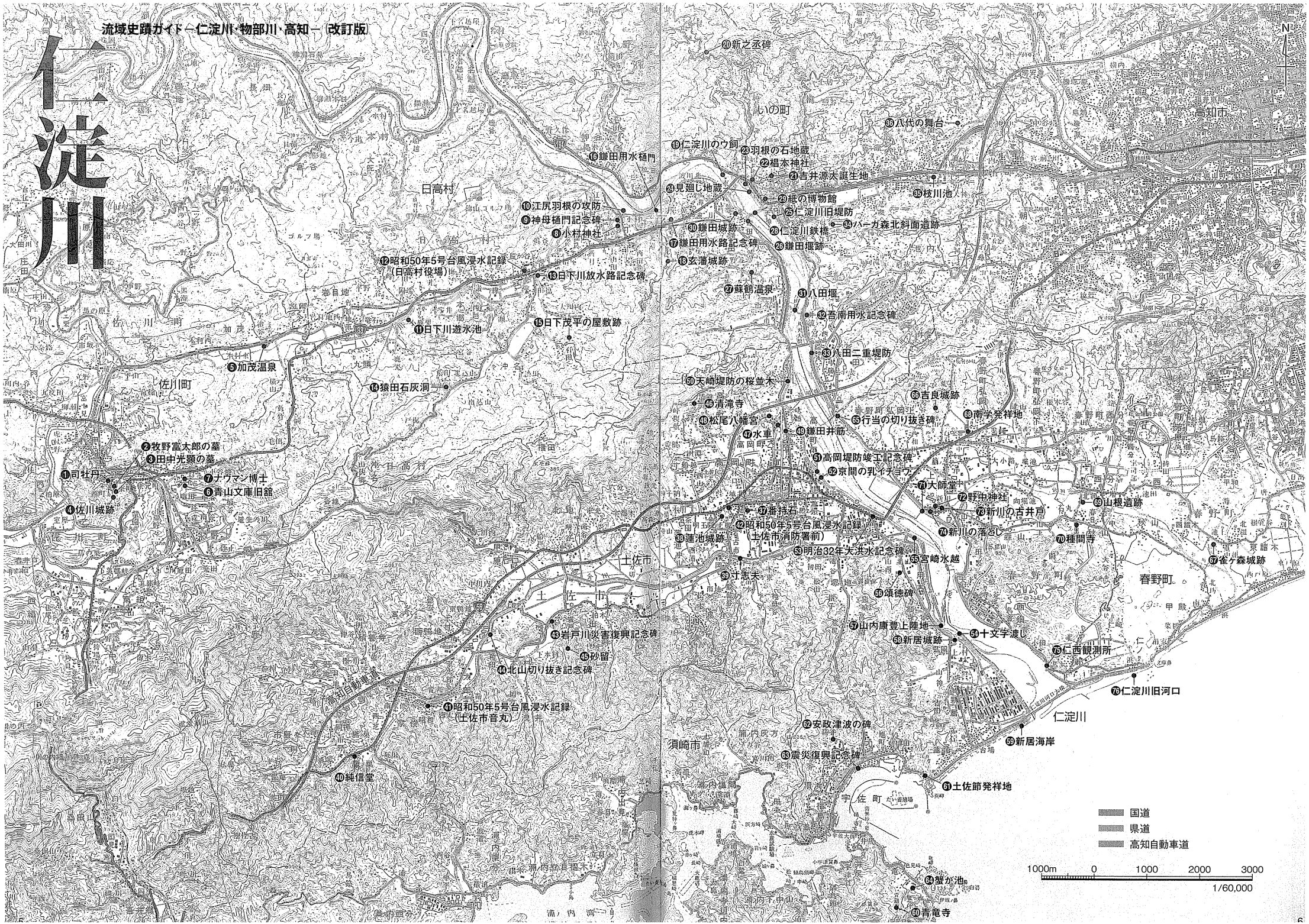
高知 KOCHI ……33

高知市 KOCHI-CITY ……34

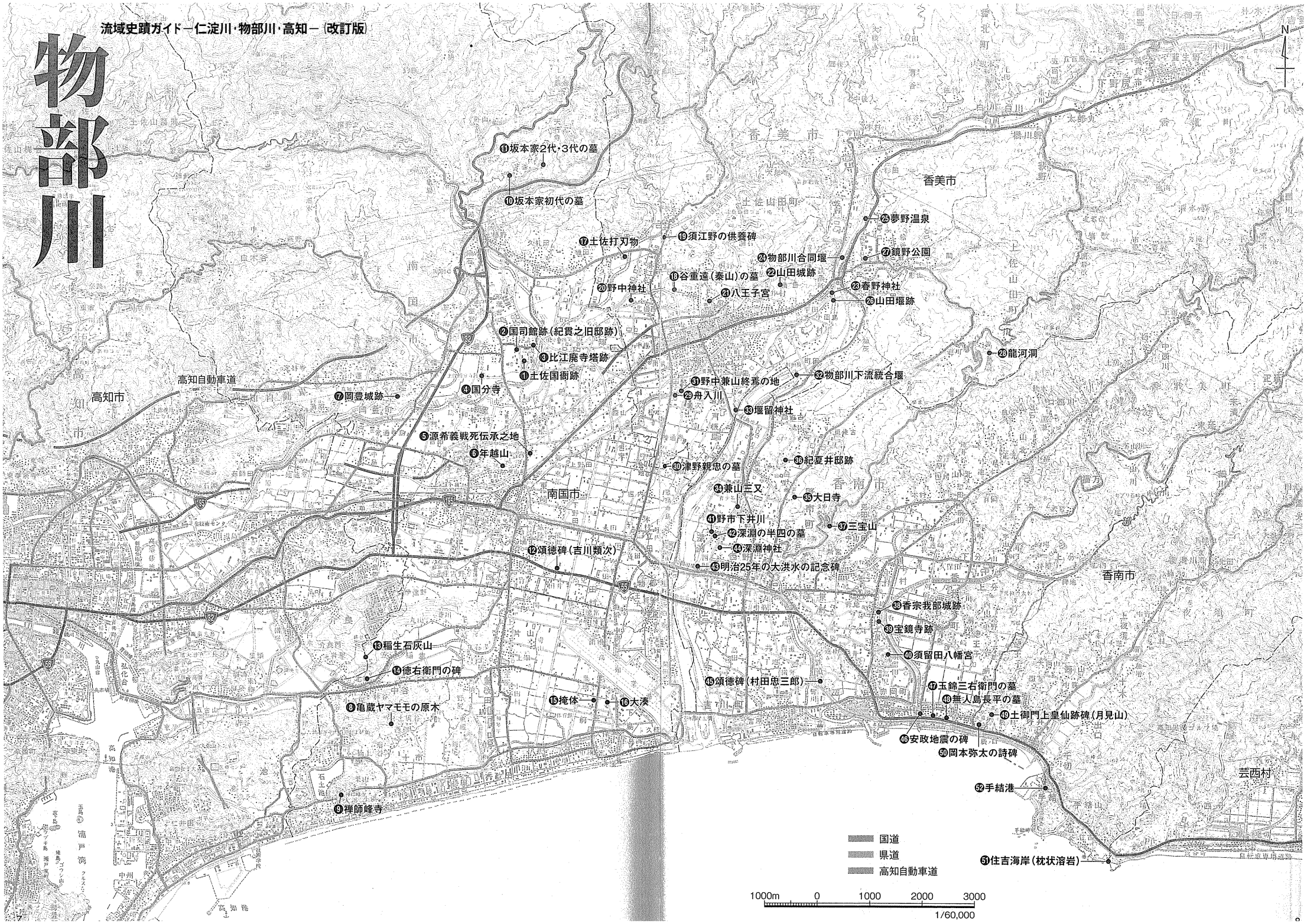
流域史蹟ガイド－仁淀川・物部川・高知－（改訂版）



仁淀川


N
日高村
佐川町
土佐市
春野町
仁淀川
須崎市
宇佐町
いの町
高知市
高知自動車道
①司牡丹
②牧野富太郎の墓
③田中光顕の墓
④佐川城跡
⑤加茂温泉
⑥青山文庫旧館
⑦ナウマン博士
⑧小村神社
⑨神母樋門記念碑
⑩江尻羽根の攻防
⑪日下川遊水池
⑫昭和50年5号台風浸水記録（日高村役場）
⑬日下川放水路記念碑
⑭猿田石灰洞
⑮日下茂平の屋敷跡
⑯鎌田用水樋門
⑰鎌田用水路記念碑
⑱玄蕃城跡
⑲仁淀川のウ飼
⑳新之丞碑
㉑見廻し地蔵
㉒椙本神社
㉓羽根の石地蔵
㉔吉井源太誕生地
㉕紙の博物館
㉖仁淀川旧堤防
㉗蘇鶴温泉
㉘仁淀川鉄橋
㉙鎌田堰跡
㉚鎌田城跡
㉛八田堰
㉜吾南用水記念碑
㉝八田二重堤防
㉞枝川池
㉟パーガ森北斜面遺跡
㊱八代の舞台
㊲天崎堤防の桜並木
㊳清滝寺
㊴松尾八幡宮
㊵水車
㊶鎌田井筋
㊷吉良城跡
㊸行当の切り抜き碑
㊹南学発祥地
㊺高岡堤防竣工記念碑
㊻京間の乳イチョウ
㊼大師堂
㊽野中神社
㊾山根遺跡
㊿番持石
(51)新川の古井戸
(52)昭和50年5号台風浸水記録（土佐市消防署前）
(53)新川の落とし
(54)蓮池城跡
(55)種間寺
(56)明治32年大洪水記念碑
(57)宮崎水越
(58)雀ヶ森城跡
(59)寸志夫
(60)頌徳碑
(61)山内康豊上陸地
(62)十文字渡し
(63)新居城跡
(64)仁西観測所
(65)岩戸川災害復興記念碑
(66)砂留
(67)北山切り抜き記念碑
(68)仁淀川旧河口
(69)昭和50年5号台風浸水記録（土佐市音丸）
(70)安政津波の碑
(71)新居海岸
(72)震災復興記念碑
(73)土佐節発祥地
(74)純信堂
(75)蟹が池
(76)青竜寺
国道
県道
高知自動車道
1000m 0 1000 2000 3000
1/60,000

物部川


⑪坂本家2代・3代の墓
⑩坂本家初代の墓
香美市
㉕夢野温泉
⑲須江野の供養碑
⑰土佐打刀物
㉗鏡野公園
㉒物部川合同堰
㉒山田城跡
⑱谷重遠（秦山）の墓
㉓春野神社
⑳野中神社
㉑八王子宮
㉔山田堰跡
②国司館跡（紀貫之旧邸跡）
③比江廃寺塔跡
㉖龍河洞
①土佐国衙跡
㉜物部川下流統合堰
㉛野中兼山終焉の地
高知自動車道
④国分寺
㉙舟入川
⑦岡豊城跡
㉝堰留神社
高知市
⑤源希義戦死伝承之地
⑥年越山
㉚津野親忠の墓
㊱紀夏井邸跡
㉞兼山三又
㉟大日寺
南国市
㊶野市下井川
㊷深淵の半四の墓
㊲三宝山
㊹深淵神社
⑫頌徳碑（吉川類次）
㊸明治25年の大洪水の記念碑
香南市
㊽香宗我部城跡
㊾宝鏡寺跡
⑬稲生石灰山
㊵須留田八幡宮
⑭徳右衛門の碑
㊺頌徳碑（村田忠三郎）
㊼玉錦三右衛門の墓
⑮掩体
⑯大湊
㊽無人島長平の墓
⑧亀蔵ヤマモモの原木
㊾土御門上皇仙跡碑（月見山）
㊻安政地震の碑
㊿岡本弥太の詩碑
芸西村
52手結港
⑨禅師峰寺
51住吉海岸（枕状溶岩）
国道
県道
高知自動車道
1000m 0 1000 2000 3000
1/60,000

高知

49 土佐神社
46 岡田（以蔵）宜振の墓
47 掛川神社
50 紀貫之舟出の地（舟戸）
高知自動車道
高知市中心部
51 源希義の墓
51 兼山神社
1 野中婉女邸跡
52 伊達兵部宗勝の墓
53 五台山
30 小倉少助・三省の墓
54 竹林寺
55 牧野植物園
39 浜口雄幸誕生地
56 武市瑞山旧宅
56 武市瑞山の墓
いの町
高知市
南国市
香美市
香南市
物部川
浦戸湾
仁淀川
土佐市
34 長宗我部信親の墓
63 雪蹊寺
35 長宗我部元親の墓
70 坂本龍馬像
58 浦戸城跡
62 唐音の切り抜き
65 若宮八幡宮
60 桂浜
67 一領具足の碑

国道
県道
高知自動車道

1000m 0 1000 2000 3000
1/60,000

高知市中心部拡大地図

48 龍乗院
25 板垣退助の像
20 野中兼山邸跡
22 山内一豊の妻の像
29 大町桂月誕生地
30 馬詰観音誕生地
4 火力発電所跡
5 開成門
16 山内容堂誕生地
2 尾戸焼窯跡
31 吉田東洋記念（遭難）の地
28 教授館跡
3 寺田寅彦邸跡
45 中江兆民誕生地
6 坂本家の墓
10 植木枝盛邸跡
24 日曜市
36 桜井跡
17 致道館跡
33 立志社跡
37 永野修身誕生地
23 高知城
26 片岡健吉の像
34 はりまや橋
11 百々越前邸跡
57 武市瑞山殉節地
32 中山高陽誕生地
12 福岡孝弟誕生地
27 片岡健吉誕生地
18 大高坂松王丸の碑
24 板垣退助誕生地
9 坂本龍馬誕生地
19 吉野朝古戦場跡
38 後藤象二郎誕生地
8 近藤長次郎邸跡
15 山内容堂邸跡
39 天神大橋
7 水丁場
13 山内神社
14 山内家下屋敷長屋
45 箕浦猪之吉誕生地
41 山内家菩提寺（真如寺）
40 潮江天満宮
42 山内家墓所
43 筆山
44 野中家の墓

500m 0 500 1000 1500
1/25,000

流域史蹟ガイド－仁淀川・物部川・高知－（改訂版）

仁淀川

NIYODO RIVER

石鎚山に源を発し、土佐湾にそそぐ仁淀川は、
この川の鮎を朝廷の贄殿に献上したので贄殿川とよばれ
仁淀川となった説や、この川が淀川に似ているので似淀川となり、
仁淀川となったという説などがあります。
古代仁淀川は、大神に捧げる酒をこの川で醸造したことから、
「神河」と書いて〝三輪川〟と呼ばれていました。

佐川町
❶ 司牡丹……12
❷ 牧野富太郎の墓
❸ 田中光顕の墓
❹ 佐川城跡
❺ 加茂温泉
❻ 青山文庫旧館
❼ ナウマン博士

日高村
❽ 小村神社……13
❾ 神母樋門記念碑
❿ 江尻羽根の攻防
⓫ 日下川逆水池
⓬ 昭和50年5号台風浸水記録（日高村役場）
⓭ 日下川放水路記念碑
⓮ 猿田石灰洞……14
⓯ 日下茂平の屋敷跡
⓰ 鎌田用水樋門

いの町
⓱ 鎌田用水路記念碑
⓲ 玄蕃城跡
⓳ 仁淀川のウ飼
⓴ 新之丞碑
㉑ 吉井源太誕生地……15
㉒ 椙本神社
㉓ 羽根の石地蔵
㉔ 見廻し地蔵
㉕ 仁淀川旧堤防
㉖ 鎌田堰跡
㉗ 蘇鶴温泉
㉘ 仁淀川鉄橋
㉙ 紙の博物館
㉚ 鎌田城跡……16
㉛ 八田堰
㉜ 吾南用水記念碑
㉝ 八田二重堤防
㉞ バーガ森北斜面遺跡
㉟ 枝川池
㊱ 八代の舞台

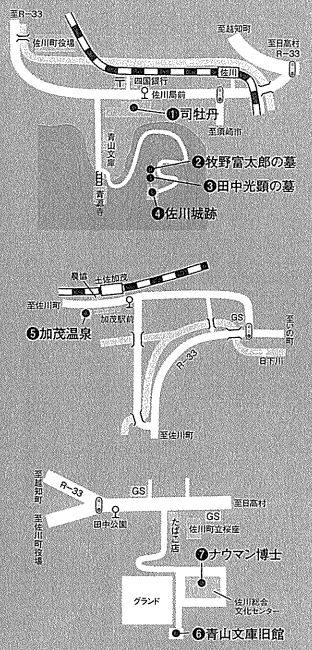
土佐市
㊲ 番持石……17
㊳ 蓮池城跡
㊴ 寸志夫
㊵ 純信堂
㊶ 昭和50年5号台風浸水記録（土佐市音丸）……18
㊷ 昭和50年5号台風浸水記録（土佐市消防署前）
㊸ 岩戸川災害復興記念碑
㊹ 北山切り抜き記念碑
㊺ 砂留
㊻ 清滝寺
㊼ 水車
㊽ 松尾八幡宮
㊾ 鎌田井筋
㊿ 天崎堤防の桜並木
(51) 高岡堤防竣工記念碑……19
(52) 京間の乳イチョウ
(53) 明治32年大洪水記念碑
(54) 十文字渡し
(55) 宮崎水越
(56) 頌徳碑
(57) 山内康豊上陸地
(58) 新居城跡
(59) 新居海岸……20
(60) 青竜寺
(61) 土佐節発祥地
(62) 安政津波の碑
(63) 震災復興記念碑
(64) 蟹が池

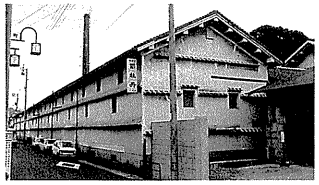
春野町
(65) 行当の切り抜き碑……21
(66) 吉良城跡
(67) 雀ヶ森城跡
(68) 南学発祥地
(69) 山根遺跡
(70) 種間寺
(71) 大師堂……22
(72) 野中神社
(73) 新川の古井戸
(74) 新川の落とし
(75) 仁西観測所
(76) 仁淀川旧河口

写真　愛媛県境、別枝口より仁淀川を望む

佐川

SAKAWA



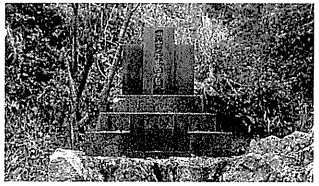


❶司牡丹

佐川町での酒造りは、山内家筆頭家老深尾氏が佐川に城下町を開いて以来、390年の歴史を持っています。昭和7年（1932）に町内の酒造家が合併、後に司牡丹酒造が誕生。仁淀川水系の名水を用いたその風味は全国にも沢山の〝司牡丹ファン〟を持ち、長く続く白壁の酒蔵は、佐川の歴史をも漂わせています。

❷牧野富太郎の墓

「草を褥に木の根を枕、花と恋して九十年」。土佐の生んだ世界的植物学者が牧野富太郎（1862～1957）です。彼の命名した新種604種、学名の変更、訂正3千種、採集した標本約50万点。著作は名著「日本植物誌」、「植物図鑑」、「牧野植物学全集」など100冊に及びます。この大きな足跡は何の学閥の支えもない野人が、ほとんど独力独学で築きあげたものです。



❸田中光顕の墓

光顕（1843～1939）は佐川町に生まれ、文久元年（1861）に土佐勤王党に加盟しました。その後脱藩し京都で中岡慎太郎ひきいる陸援隊に参加。慎太郎が暗殺された後陸援隊長として、倒幕の急先鋒を勤めました。明治新政府が開かれると兵庫県権判事を皮切りに数々の要職を経て、明治31年より11年余にわたり宮内大臣を務めました。

❹佐川城跡

佐川町の市街地東南部の古城山に城跡があります。城主は中村越前守信義。中村氏は元亀2年（1571）に長宗我部元親に敗れました。慶長6年（1601）山内一豊入国後は、深尾和泉守重良が城主となりましたが、元和の一国一城令で城は取り壊されました。現在は県下有数の桜の名所として広く親しまれています。

❺加茂温泉

この温泉は、加茂本村の宇治谷の鉱泉を利用し、ラドンの含有量も豊富で皮膚病などに効くと評判です。この宇治谷に数百年生きた老女が住んでいたそうです。老女が死んだあと村人たちは老女が日々汲んでいた谷水に長寿の秘訣があることを知り、この温泉が始まったといわれ、別名を山姥温泉ともいわれています。

❻青山文庫旧館

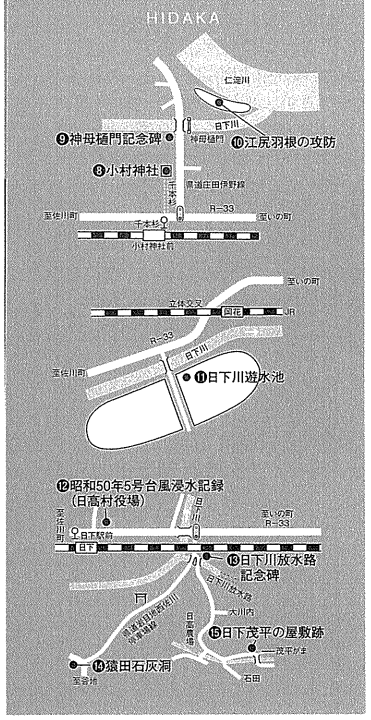
青山文庫は、県下初の私立図書館川田文庫として明治43年（1910）に川田氏が創立しました。その後、田中光顕伯からの基金書籍等の寄贈に感謝し、伯の雅号をとって青山文庫と改称しました。昭和38年に県立郷土文化会館分館となり、古城山下の奥の土居に移転され、田中光顕伯の寄贈した書籍13,000冊。国宝に准ずる皇室御物、宸翰類117点・志士の遺墨類796点、さらに英文学者西谷退三氏の蔵書9800冊などを展示しています。また、写真の青山文庫旧館は、佐川警察署の庁舎として明治19年（1886）に建築されたもので、当時同じ形式で建築された県内各地の郡役場や警察署のうちで残っている唯一の建物です。昭和初期に青山文庫の創始者川田豊太郎氏が払下げを受けて自分の邸内に移築し、青山文庫として使いました。現在は佐川総合文化センター内に移築され民具館となっていますが、再度の移築や使用の変更にもかかわらず外観・内部とも建築当初の姿を残しています。

❼ナウマン博士

土佐、佐川は〝日本地質学発祥の地〟〝地質のメッカ〟と呼ばれ、地質学史上でも大きな役割を果してきました。この佐川で最初にハンマーをふるったのが、ナウマン象の名で知られる地質学者エドムンド・ナウマン（1854～1927）。彼が佐川や領石で採集した化石は、後に世界に発表されました。現在佐川総合文化センターには、化石展示室が設けられ、地質学会にとっては国宝的存在である〝ナウマンの詩〟などを展示して、その偉業を伝えています。

日高

HIDAKA



⑧小村神社

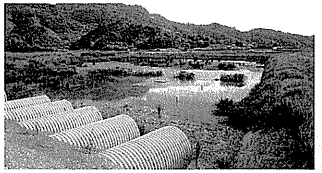
小村神社は、土佐神社についで土佐国の二の宮といわれ、用明天皇2年（586）に創建されたと伝えられています。祭神は国常立命。古くは小村大天神などとよばれていました。社殿は通称千本杉といわれる長い杉並木の奥にあり、神体である金銅荘環頭大刀は古墳時代後期の作で、国宝に指定されています。

⑨神母樋門記念碑

明治20年（1887）に完成した自動扉仕掛けの水門が、25年後の明治44年（1911）8月の大洪水で崩壊閉塞しました。このため加茂村と竜田村が協議して、耕地整理組合を組織し、3年後の大正3年（1914）に巨額を投じ樋門の永久工事を完成させました。現在、当時の樋門は残されていませんが、この事を記念した石碑が建てられています。

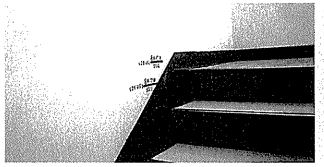
⑩江尻羽根の攻防

江尻羽根の修築に関しては長い年月、幾度も大水と人間の攻防が繰り返されました。享保年間（1716～1736）背割堤ともいう一時的羽根を仁淀川に設け、宝暦8年（1758）には永久的築造とし、天明4年（1784）には羽根70間を延長したところ、大洪水に見事な効果を発揮しました。しかし以後も幾度となく流失し、そして修築、まるで洪水とのイタチごっこが続けられました。



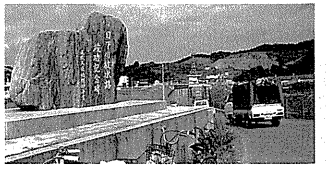
⑪日下川遊水池

日高村、国道33号線の立体交差を西へ越すと、南側一帯に湿地帯が広がっています。このあたりは年間平均雨量2600㎜の多雨地帯であり、しかも低地。昔から雨が降るとすぐ浸水する所なので、明治時代に稲作の出来ないこの地で杞柳の栽培が始められ、その名残りで今でも一面に杞柳が茂っています。現在高知県の手により遊水池として、整備されています。



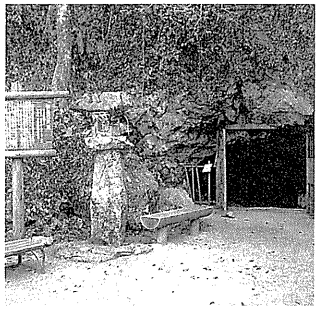
⑫昭和50年5号台風浸水記録（日高村役場）

昭和50年8月17日、台風5号は宿毛市付近に上陸、中心が伊予灘に抜けた昼ごろから、仁淀川中流域一帯は豪雨に見舞われました。日下川流域でも日高村全域にわたって浸水し、多大な被害を受けました。今も日高村役場の階段には、その浸水のすごさを物語る、日時、浸水位置などの貴重な記録が職員の手によって書き残されています。



⑬日下川放水路記念碑

昭和50年台風5号の災害に対して、建設省（当時）直轄の「激特事業」として建設されたのが日下川放水路です。放水路トンネルとしては我国最大級のもので、古くから「嫁にやるとも日下にゃやるな、蛙が小便すりゃ早やつかる」と言われている日高村にとって、悩まされつづけた内水被害の軽減に大きな役割を果たしています。

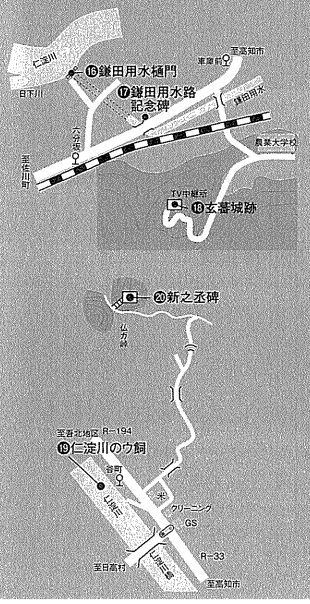


⑭猿田石灰洞

この洞は安政5年（1858）に発見開口された石灰石の鐘乳洞で、本洞、枝洞合せて1400m余りの長さがあります。発見当時は見物人が1日数百人も訪れ、入口付近に露店が軒を並べる程の人気であったと言われています。しかし現在はあまり訪れる人もなく、ひっそりとしています。（現在入洞には日高村教育委員会の許可が必要〝TEL 0889－24－5115〟）

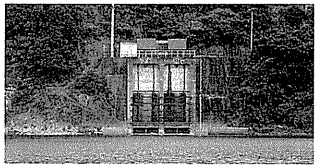
いの

INO



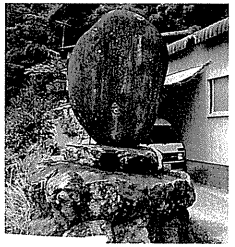
⑮日下茂平の屋敷跡

茂平は藩政のころの忍者。日下といえば茂平、茂平といえば日下といわれた名物男です。若いころ庄屋の娘との恋が許されず、悲観して猿田洞で自殺を図ったが天狗に救われ、その天狗から伊賀流の忍術を教わったといわれています。盗んだ金品は貧乏人にわけたという義賊でもあり、なかなか人気があったということです。



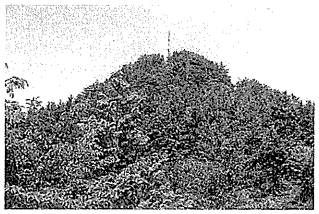
⑯鎌田用水樋門

昭和12年に、高岡町外四ヶ村の耕地整理組合が鎌田用水の取水口を新設し、立岩より波川に至る用水路隧道を完成させました。これにより万治2年（1659）に野中兼山が構築以来、仁淀川の河床を年々持ち上げ日下川に逆流させた鎌田堰が撤廃され、兼山を憎み続けてきた日下川流域の農民にとって、長く尾を引いた兼山への宿怨はこの竣工により漸く解消されました。



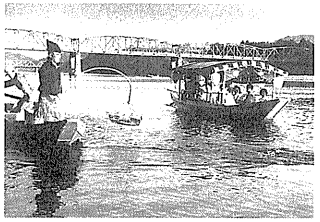
⑰鎌田用水路記念碑

いの町波川国道33号線治いの立岩取水口より導水した用水隧道の出口に碑は建てられています。改修以来50年を経た現在でも水勢は盛んで700ha、1900戸の農家を支えています。野中兼山も立岩に取水口をと考えていたようですが、当時それを実現するだけの技術がなく目的を達することができなかったのだろうと思われます。



⑱玄蕃城跡

いの町波川の西南端日高村近くに、あたかも富士を見るような山があります。この山は四国八十八城の内屈指の名城といわれる、波川玄蕃頭清宗の居城葛木山。玄蕃は長宗我部元親の妹婿であったが元親への謀反の罪で自刃を命ぜられ、その一族も滅ぼされてしまいました。現在山頂にはNHKのテレビ塔が建ち、道路が通じています。

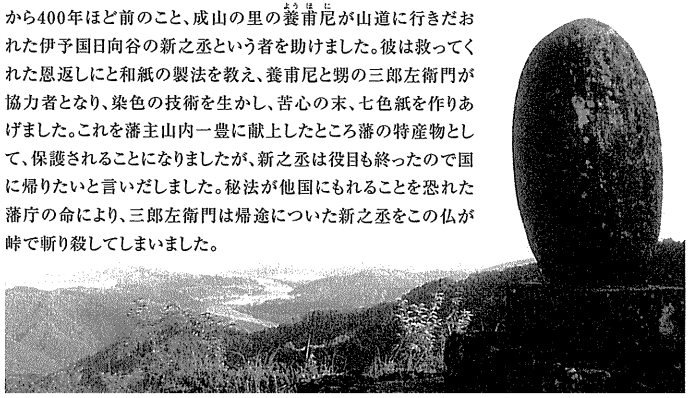


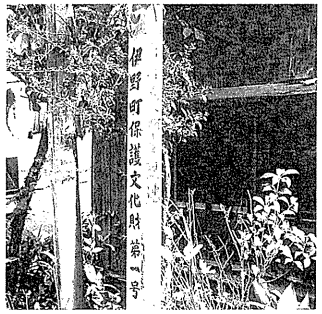
⑲仁淀川のウ飼

仁淀川のウ飼は、はっきりした起源は不明ですが、1540年頃にはすでにおこなわれていました。暗夜の仁淀川を鵜舟が横に並び電燈で水面を照らしながら鵜を操り川を下る風景は、夏の風物詩であり、鮎を追う鵜の姿はまさに水中のショーでしたが、昭和45年の台風10号で舟の大部分を流され、仁淀川のウ飼の火は消え去りました。

⑳新之丞碑

土佐の名産…紙にサンゴにカツオ節…と歌われた土佐手すき和紙。その発祥の地といわれるのがいの町成山です。この成山から東、仏が峠に「紙業界之恩人新之丞君碑」という石碑がたてられ、これにまつわる哀れな物語が伝説として残っています。今から400年ほど前のこと、成山の里の養甫尼が山道に行きだおれた伊予国日向谷の新之丞という者を助けました。彼は救ってくれた恩返しにと和紙の製法を教え、養甫尼と甥の三郎左衛門が協力者となり、染色の技術を生かし、苦心の末、七色紙を作りあげました。これを藩主山内一豊に献上したところ藩の特産物として、保護されることになりましたが、新之丞は役目も終ったので国に帰りたいと言いだしました。秘法が他国にもれることを恐れた藩庁の命により、三郎左衛門は帰途についた新之丞をこの仏が峠で斬り殺してしまいました。



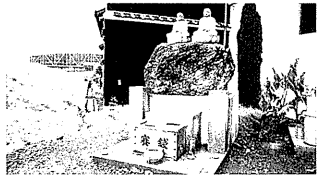


㉑吉井源太誕生地

明治維新後、それまでの家内工業的製紙業を近代化したのがこの吉井源太（1826～1908）です。彼は製紙技術の改良や新製品の開発などに力を入れ、土佐和紙の発展につくしました。彼の口述著書「日本製紙論」は土佐和紙の歴史を明らかにするとともに、伝統の技術を理論化し、技術革新をもたらせた貴重な労作とされています。

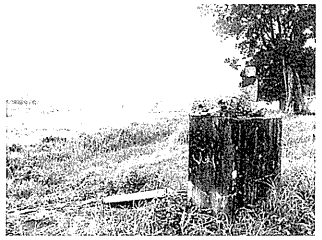
㉒椙本神社

椙本神社は、財福の神大黒天、いのの大国さまとよばれ、県内で知らぬ人がないほど広く親しまれています。祭神は大国主命・素盞嗚命・奇稲田姫命。弘長3年（1263）藤原助影によって寄進された八角形の御輿は、国の重要文化財にも指定されており、特にその棟上を飾る鳳凰は全国でも類例の少ない秀作とされています。



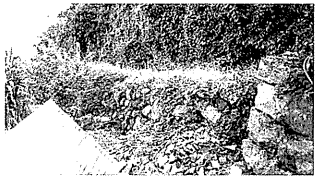
㉓羽根の石地蔵

文久3年（1863）、当時の住民達が風水害から人命、家屋を守るため、仁淀川流域の竹木を切らぬように庄屋に出した古文書が残されています。その文中に出てくる地蔵で、過去の風水害により壊れ新しく作り直されているため、昔の面影はなくなっていますが、2基の地蔵は仁淀川本流に向って立ち、風水害を鎮める守り仏として祭られています。



㉔見廻し地蔵

いの町仁淀川橋下流の仁淀川堤防を下りた所にある羽根堤防の上に地蔵があります。この地蔵は土地の人の話によると、子供達が水の犠牲とならないようにと見廻す守り仏として、祭られているとの事です。

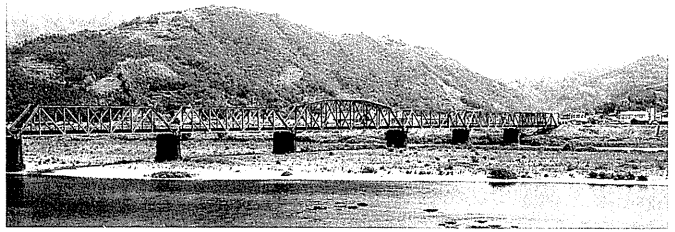


㉕仁淀川旧堤防

あばれ川仁淀川は、昔、洪水のたびに流路を変えていました。藩政期以前にも堤防は作られていましたが、現在のような姿で安定したのは、藩政時代野中兼山が荒れはてた河原に堤防を築いて、河川の整理を行ってからです。写真は上田神社へ行く小さな参道ですが、これが僅かに残った兼山以前に築かれた小堤の残痕だと思われます。

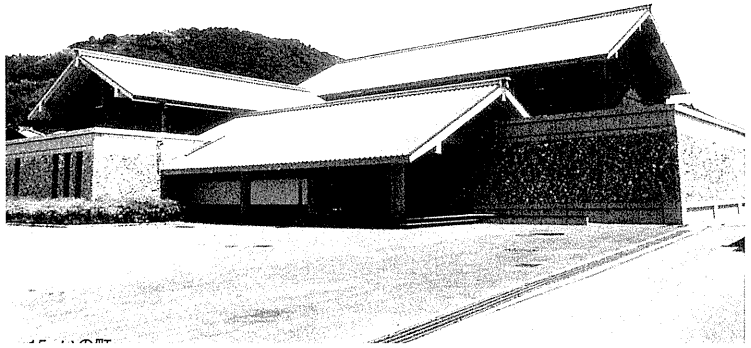
㉗蘇鶴温泉

蘇鶴のいわれは、昔、傷ついた一羽の鶴が毎日この温泉で水浴するうちに、ほどなく傷が癒えて飛びさる姿をみて、誰言うともなくこの温泉を蘇鶴温泉というようになったとの言伝えによるものだといわれています。これはこの温泉が硫黄分を含む鉱泉であったからで、ここから鉱泉を引いているかんぽの宿伊野でも、この湯は傷に効くとなかなかのにぎわいです。



㉘仁淀川鉄橋

鉄橋が架けられたのは大正末期。高知一須崎間に待望の高知鉄道が開設されることになってからです。鉄橋建設に関しては町議会もかなり慎重で、建設に伴う仁淀川への影響など論議が繰り返されたそうです。80余年経った今日、今でも変わらぬのはこの鉄橋と山並み。当時田園の中にあった伊野駅も今はにぎやかな場所になっています。

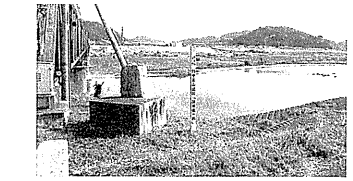


㉙紙の博物館

「紙をすく　いのは水辺の　ふりし町」

郷土の俳人森木茶雷の句のように、いの町は清流仁淀川に沿い古くから紙の町として全国に知られ、土佐和紙とともに発展してきました。この紙の博物館は、和紙の歴史、原料と道具、手すき教室、現代の和紙などのコーナーを設けた日本有数の博物館。土佐の観光コースにも多く取り入れられています。

開館時間は午前9時～午後5時
休館は月曜日となっています。
TEL 088－893－0886



㉖鎌田堰跡

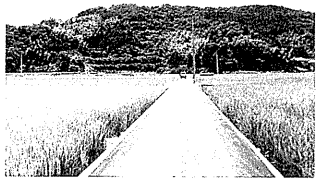
鎌田堰は、万治2年（1659）野中兼山が着工、構築したものです。この堰から鎌田井筋が引かれ、灌漑用水路としてだけでなく逼河の役割も果たしていました。しかし上流部の日高村では、ただでさえ浸水の被害をうけて来た上に、鎌田堰による水位上昇が加わり仁淀川の逆流が更に増大しました。このため日下川流域の農民はひたすら兼山を憎み、土佐藩を憎みました。

㉚鎌田城跡

いの町内でただひとつ戦のあった城。長年の土砂採掘と造成工事で形状は変わり、鎌田城跡と書いた標柱があるだけで、昔の姿を偲ぶものは残されていません。現在城跡はかんぽの宿伊野となり、温泉をはじめ演芸・宿泊等いの町有数の観光・保養施設として、地元の人はもちろん町外からの団体客などでにぎわっています。

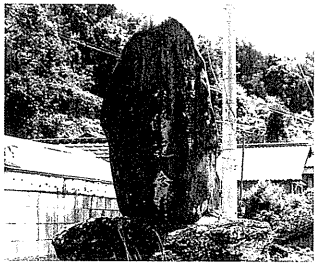
㉛八田堰

八田堰は、野中兼山が指揮し慶安元年（1648）から承応元年（1652）まで5年を要して築いたものです。現在はコンクリートにより近代的に改修されていますが、兼山逼橋の八田堰は湾曲斜め堰で、施工にあたり流水との調和を図るため川に綱を張り、流水による綱のたわみぐあいを調べて堰の方向や形状を決めたといわれています。また左岸に弘岡井筋を作り、吾南平野約900haの灌漑用水路としてだけでなく、高知城下へ通じる物資の運送路としても利用しました。



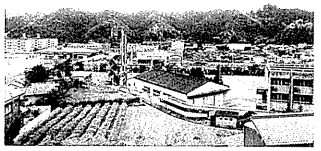
㉞バーガ森北斜面遺跡

弥生中期の高地性集落遺跡で、昭和32年に発見されました。昭和49年・51年に発掘調査が行われ、3棟の竪穴住居跡（標高53m～76m）が見つかり石斧、石包丁、石鏃などのほか、窪川町で発見された神西式土器と土佐山田町で発見された龍河洞式土器が7対3の割合で出土しています。この事はこの遺跡が高知県の中央部にあり、それもやや西によっているためだと考えられます。



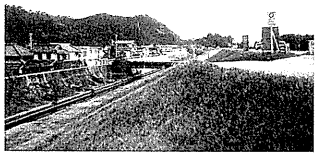
㉜吾南用水記念碑

弘岡井筋は野中兼山が慶安元年（1648）より5年の歳月をかけ行当の切り抜きなどの難工事を完遂し完成させた用水路です。その後幾度も補修工事が行われて来ましたが、昭和3年より3ヶ年余の歳月をかけ鉄とコンクリートによる近代技術で八田堰、行当の切り抜き、などの大改修工事がおこなわれ、その工事を記念して石碑が建てられています。



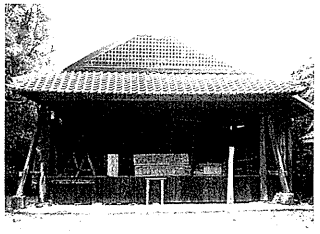
㉟枝川池

昔、枝川にあった沼地が枝川池です。枝川は沼地・湿地が多く、浸水による農作物の被害の多い土地でしたが、昭和29年4ヶ町村が合併し伊野町となった後、都市計画で沼・湿地を埋めて宅地化したので人口は急増。今は高知市のベッドタウンとなり昔の面影は残っていません。



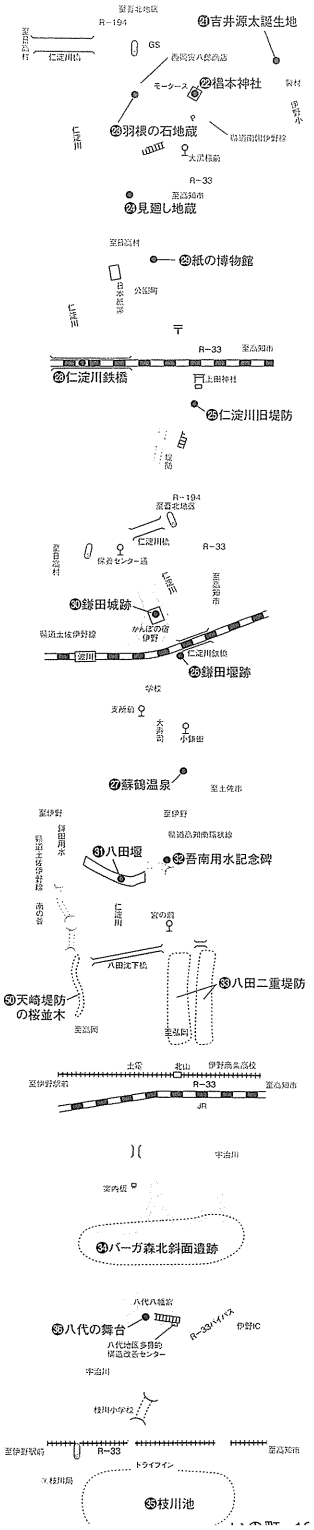
㊳八田二重堤防

八田堰弘岡井筋取水口を基点に八田の南に抜け、新川の西から森山の山の手に達する壮大な特殊堤防があります。それは野中兼山が水害防止上の通例をこえ、平地に高く築いた二重堤防であり、当時他所では見ることのないもので、仁淀川氾濫の非常時に備え、また開墾地保護の一策として築かれたものです。



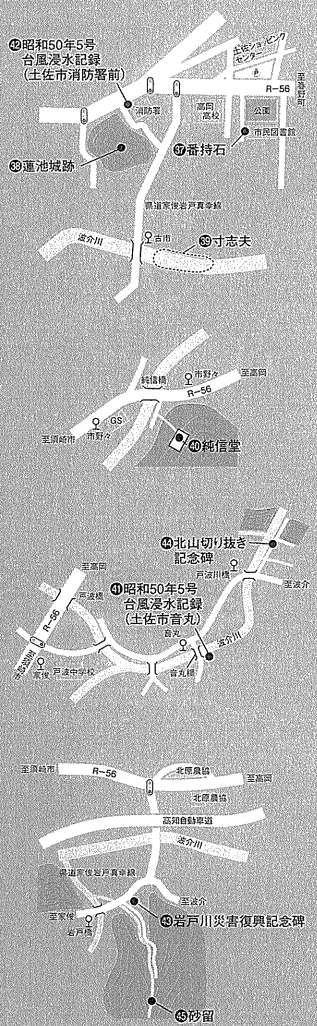
㊱八代の舞台

昔、県下の農山村や漁村では、秋祭りや豊漁時、農閑期に地芝居を楽しんだといわれています。こうした地芝居の舞台のなかで、いの町八代八幡宮に残されている歌舞伎舞台は回り舞台です。床下に青年が入り鍋釜とよばれる回転床の芯棒を押して回す仕組で国の重要有形民俗文化財に指定されています。



土佐

TOSA

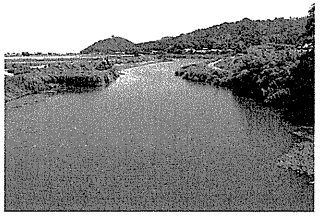


㊲番持石

番持石は、用石北山の小野坂あたりにあった10坪ほどの空地で、地元の青年達が力自慢に番持ちをやっていた石で約80kgあります。石の表面には《奉　建立為流死亡者菩提・文政12年（＊1829）己丑3月24日世話人　用石村、中島村》と書かれており、洪水で流死した人の供養塔の一部であったものと思われます。

㊳蓮池城跡

高岡の市街地西部の丘の上にある中世の城跡で、築城年代は不明ですが、「菩提鏡」に見られる蓮池家綱の城であったといわれ、後に大平氏、一条氏、本山氏らの手を経て、永禄11年（1568）吉良氏の居城となりました。現在は公園となり、その遺構の跡はとどめていませんが、市民の憩いの場として親しまれています。

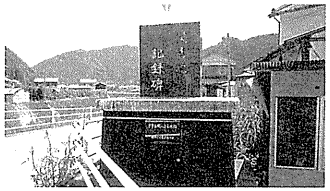


㊴寸志夫

寸志夫とは、村の人々が自発的に無賃で工事に出夫することをいいます。天保年間（1830～1844）に窪地5ヶ村の村民が、水吐けをよくするため波介川の川床を掘り下げる工事を寸志夫でやりましたが、滞水に苦しんだ人たちが自発的に立ち上がった貴重な記録といえます。

㊵純信堂

「坊さん　かんざし買うをみた」と歌われているヨサコイ節の主人公は、五台山南の坊の純信、そして、山のふもとに住む17才の美女大野うまの二人。20才も歳の違う二人が出合い、そして熱い恋に燃えました。安政2年（1855）5月、二人は手に手を取って駆け落ちをしましたが、讃岐琴平神社一ノ坂の高知屋で捕えられ、その後うまは須崎へ追放。純信は藩外追放となり消息は伝えられていません。この二人の悲恋はアメリカニュージャージー州の小学校の音楽の教科書にも採録されています。純信の生地であるこの地の有志は純信堂を建立し、純信の霊をなぐさめています。

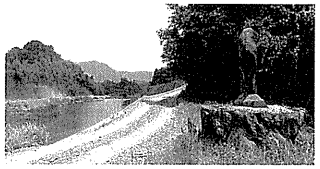


㊶昭和50年5号台風浸水記録（土佐市音丸）

㊷昭和50年5号台風浸水記録（土佐市消防署前）

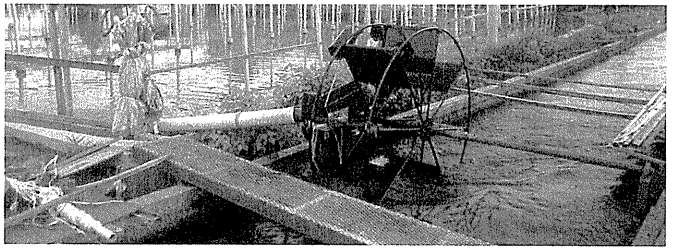
昭和50年8月グァム島付近で発生した台風5号は、8月17日午前8時50分宿毛市に上陸。中心が伊予灘に抜けた昼ごろから仁淀川中流域一帯は豪雨に見舞われました。ここ土佐市でも1時間雨量117mm・24時間雨量550mmを記録し、鳴川の山崩れ、天崎・末光の山崩れ、用石堤防の決壊などの他、市内一円に亘って河川の氾濫による濁流で浸水、泥海のようになりました。音丸の浸水記録碑・岩戸川災害復興記念碑・高岡消防署前の浸水記念碑などが、この台風の被害の大きさを物語っています。

㊸岩戸川災害復興記念碑



㊹北山切り抜き記念碑

波介、戸波地域は、波介川の排水能力の悪さに加えて本川仁淀川の逆流により、古来滞水の被害に苦しみ続けました。明治44年（1911）関係地主らの手で、波介戸波耕地整理組合が発足。戸波城跡の南を迂回する波介川を変じて北山を貫通、江良沼15町歩を干拓。その雄大な構想、実施は、今も時代を越えて偉大な人間の迫力を感じさせてくれます。



㊼水車

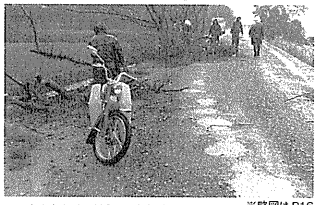
谷間でコットン、コットンとリズムを伝えた米搗き水車も今では懐かしく、山村でもその風景があまり見られなくなってきました。しかし今でも鎌田井筋の土佐市内で3ヶ所、弘岡井筋で1ヶ所の灌漑用水車が残されており、昔ながらの風情で水を汲み上げています。

㊺砂留

砂留とは渓流の水害を防ぐために、割石でもって流れに逆らうことなく、川床と側壁を包む工法のことで、護岸と砂防を兼ねそなえたものです。江戸時代には、出間、用石、塚地、浅井、市野々、永野、宮内などに築かれていました。これらの砂留も昭和50年の台風5号で跡かたもなくなったものもありますが、岩戸の砂留は今でも、激流から村を守っています。

㊽松尾八幡宮

松尾八幡宮は、平城天皇の第3皇子葛岳親王が京都の岩清水八幡宮をこの地に勧請し創建したものと伝えられ、祭神は足仲津彦尊・息長足媛尊・品陀和気尊。天文17年（1548）に藤原有定らが社殿を修築しました。明治時代に入り、清滝寺を分離し、八幡宮の本地仏3体は清滝寺に祀られています。



※時図はP16

㊿天崎堤防の桜並木

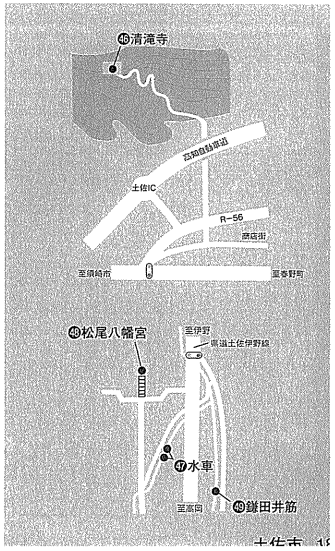
以前この天崎堤防に桜並木があり、春には満開の桜の花が人々の目を楽しませていました。しかし台風の風により桜の木が倒れ、堤防に地割れなどができたために、現在は切り取られて無くなっています。

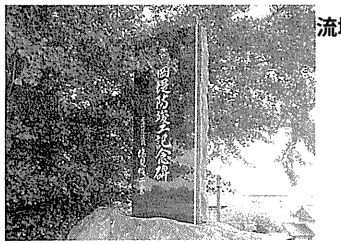
㊻清滝寺

清滝寺は、養老7年（723）行基が開創したと伝えられる真言宗豊山派の寺で、本尊は薬師如来。高岡のお大師さんと親しまれている四国霊場八十八カ所の35番札所です。寺号は、空海が突いた金剛杖の跡から清水が湧き出し、鏡のような池になったことに由来するといわれ、平安後期の作といわれる本尊の薬師如来立像は、国の重要文化財に指定されています。

㊾鎌田井筋

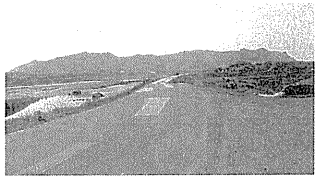
古い歴史をもって高東平野を一大沃野とした偉大な功労者がこの鎌田井筋です。野中兼山はこの鎌田井筋の他、八田堰より弘岡井筋・物部川の山田堰より上井川・中井川・舟入川など10余の用水路を建設し、約75000石の新田を開発しました。これにより土佐藩24万石の石高は実質30万石以上になりました。





㊶高岡堤防竣工記念碑

昭和50年の台風5号は、仁淀川中流域に未曾有の集中豪雨をもたらし、仁淀川は大洪水になりました。この洪水による湯水、地割れで高岡堤防は各所で決壊の危機に瀕し、土佐市民にとって高岡堤防拡幅強化の早期達成は悲願となりました。昭和50年12月着工、総事業費3億5千万円をもって完成。この碑は事業完成に尽力された人々に感謝して建てられたものです。

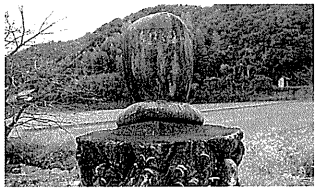


㊺宮崎水越

寛文6年(1666)の洪水の際、乱流する仁淀川本流は一気に用石の沃野を突っ切り荒川成(古川)をつくりました。ここが自然に波介川最下流としての役割を持っていましたが、人工的に水越(越流堤)を作り、波介川の合流点を用石下の谷に固定。これにより合流点の水位差を大にし、上流低地の滞水の被害を減少させる、まことに優れた発想であります。現在は堤防の改修が進み、昔の面影は残っていません。

㊷京間の乳イチョウ

推定樹齢1600年。高岡の西側を南下する仁淀川右岸の堤防上に立つ大イチョウで、貞観三年(861)高岳親王が土佐に来て、清滝寺で修行をするため仁淀川を遡り、この木に舟を係留したと伝えられています。近づいて見ると6～7本の大きな幹に別れて一本の木には見えませんが、本当の根元は堤防嵩上げの際に埋もれ、6m下にかくれています。

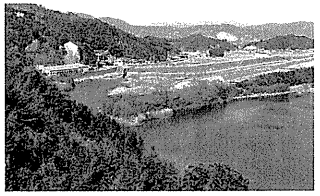


㊻頌徳碑

大谷に行く道路脇に、元高知県知事溝淵増己氏の筆による《頌徳碑　小川豊氏・松沢重吉氏》が建てられています。水害にあえいだ用石を、堤防の建設、湿地帯の耕地整理、須賀の開田によって新しい農村に造りかえた、2人の燃えるような愛郷心と献身的な努力をたたえ、また2人に続く者を待つ願いが記されています。

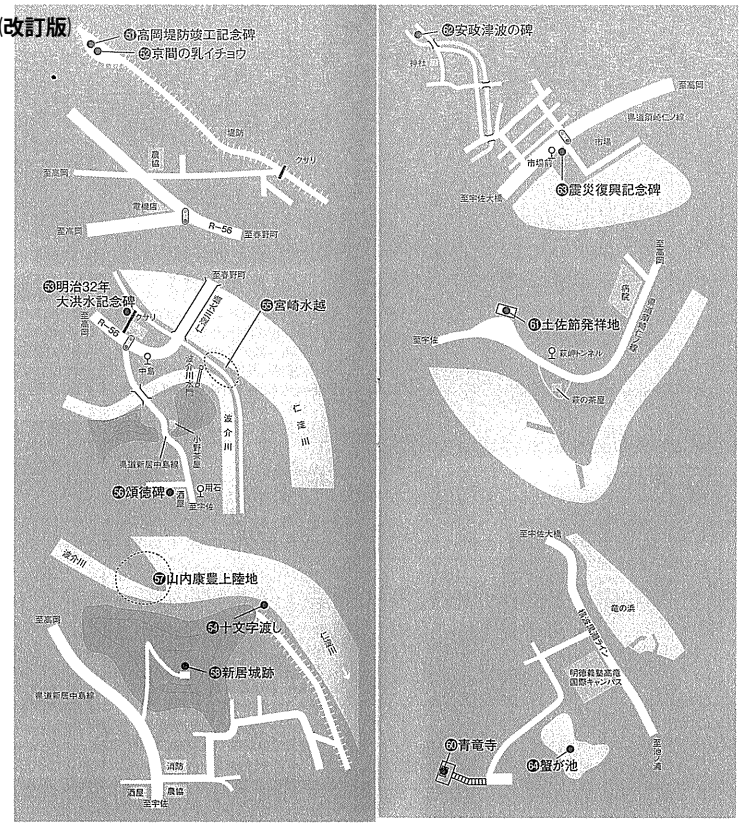
㊸明治32年大洪水記念碑

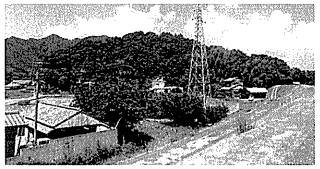
明治28年(1895)から55年をかけて強化した堤防が工事完了直後、明治32年(1899)7月9日の豪雨により、野田川、鶴若、是吉、宮崎と4ヶ所に亘って決壊しました。堤防はほとんどズタズタの状態で、被害は新居、宇佐両地区を除いて土佐市全域にまでおよび、特に高石村中島では流失家屋18戸、死者19人の大惨事となりました。



㊼山内康豊上陸地

山内一豊の弟康豊らが土佐に入国し、長宗我部遺臣の一領具足と浦戸城明け渡しの交渉を続けましたが、平和解決は得られず浦戸一揆となりました。康豊は一揆をおさえるため、一部の兵力を持って"さぜんの鼻"という用石万願寺の南端付近に上陸したという伝誦があります。このことは浦戸城の後方地域に楔を打ち込んだものといえるでしょう。





㊹十文字渡し

この十文字渡しは、宇佐と高知城下を結ぶ最短コース上にあり、幕末から明治にかけて行われた夜売りもこの渡しを利用していました。宇佐の浜に上がった砂つき鰹を天秤棒で担って、城下雑喉場まで約20kmの道程を一時間半ほどで走り抜ける夜売りの人たちにとって、ここを舟で渡る間だけが憩いの一時であったことでしょう。

㊾新居城跡

十文字渡しの西方に隣接する小山に、戦国期の新居城跡があります。築城年代などはわかりませんが、地元では寺村淡路守の居城で、長宗我部氏に攻め落されたと伝えられています。現在城跡は城山公園となり、付近には城に関連した地名として、城戸裏・北の丸の小字が残っています。

※略図はP22

㊾新居海岸

今から1100年余の昔、平城天皇の第3皇子高岳親王が弘法大師に帰依し、仏法を求めて唐国に行く途中、風波に遭遇して漂着したといわれるのがこの新居海岸です。仁淀川の名前の由来には定説はありませんが、この時高岳親王が川の様相が淀川に似ていると言ったことが、似淀川となり今の仁淀川となったという伝承があります。

㊿青竜寺

青竜寺は、弘仁元年(810)空海が開基したと伝えられる真言宗豊山派の寺で、本尊は不動明王。竜のお不動様と親しまれている四国霊場八十八カ所の36番札所です。寺号は、空海の師恵果のいた中国長安の青竜寺の名をそのまま命名したといわれ、鎌倉期の作とされる愛染明王坐像は国の重要文化財に指定されています。

61土佐節発祥地

土佐名産鰹節の発祥は、宇佐浦(土佐市宇佐)の竜蔵という人が紀州人から技術を学んで作り始め、以後興隆したといわれています。近世初期になると、宇佐と土佐清水の二大産地が中心となり、土佐の各浦々で生産されはじめ、上方への販売、また幕府への献上品や大名への贈答品として、土佐節は広く珍重されるようになりました。

65震災復興記念碑

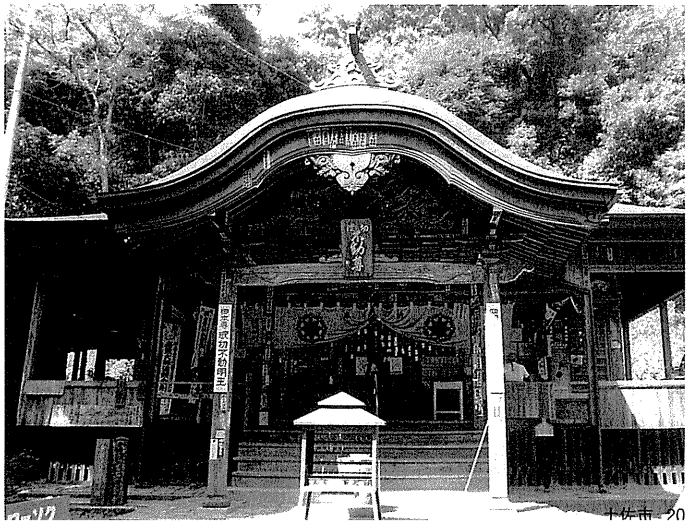
宇佐町市場前の県道沿にあり、昭和21年12月21日に勃発した南海大地震の概要が記されてあります。この地震は全県的に震度5の強震。死者679人、負傷者1836人、被害総額は30億円を超え、宇佐町では満潮時約5mの高潮が押し寄せ、町全体が海原になりました。

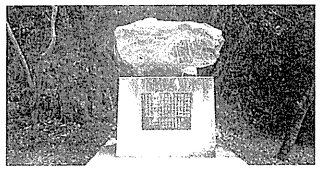
62安政津波の碑

安政元年(1854)11月5日午後5時頃大地震が襲いました。8・9度の大津波に見舞われた宇佐町は、死者70余人、残った家はわずか6・70軒。この碑には後世への戒めとして「この時山を目当てに逃れしものは皆命を助かる。船に乗り離を遁れんとせし者は溺死多し、沖より波来るのみにあらず、海近き土地は下より汐出すもの也。」と記されています。

63蟹が池

蟹が池は、約3haの沼状の池で竜の池・七葉の池とも呼ばれ、ベッコウトンボの生息確認地として知られています。この池にまつわる伝説として、青竜寺ができた昔、八人の天女が天降り一夜で掘ったといわれています。また池の主として畳四丈半も六丈もある大きな蟹が住んでいるとの説があり、色々な奇怪な話が伝えられ、池の名の由来にもなっています。池の東には明徳義塾高竜国際キャンパスがあります。





㊺行当の切り抜き碑

野中兼山の遺構、行当の切り抜きの傍に碑があります。切り抜きとは、水路を引くために障害となった山を切り抜きトンネルを作ることです。火薬のない当時、ツチとノミだけで岩に挑むことを考えれば、いかに難工事であったかは想像でき、芋の茎を燃やして岩にひびを入れた「いもじ十遍」、兎が通った事を他言せず工事に遅れをださなかった工事人に褒美を出した「春兎通ったあとが百貫目」などが伝説となって残っています。

㊻吉良城跡

吉良城は、背後に標高250mの吉良ヶ峰がそびえ、眼下に弘岡平野が一望できる丘陵上にあり、自然の要害となっています。築城年代などはわかりませんが、戦国時代の豪族吉良氏代々の居城と考えられます。吉良氏は天文年間(1532～1555)の宣経の頃が全盛期で、その子宣直が本山氏に敗れ滅亡しました。

㊼雀ヵ森城跡

春野町池上の県道沿にポツンと一つある標高60m余の小山に雀ヶ森城跡があります。この小山は、西斜面がやや緩やかな他は急崖で、自然の要害となっています。城主は戦国時代の豪族本山氏の属将高橋壱岐守と伝えられているだけで、築城年代などはわかりませんが、頂上には約500㎡の本丸跡があります。

㊽南学発祥地

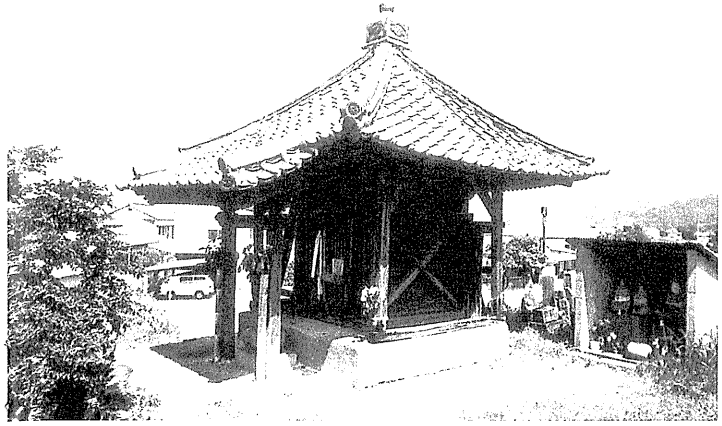
南学は吉良城下の弘岡に発祥した儒学の一派で海南朱子学ともいいます。天文年間(1532～1555)に好学の城主吉良宣経が南村梅軒を招いて講義を開いたのが始まりで、学流は雪蹊寺の天質が受けつぎ、その門下谷時中が南学興隆の祖となりました。小倉三省・野中兼山・山崎闇斎らも学び、その行動的な教えは幕末の勤王志士の思想基盤を形成しました。

㊾山根遺跡

この遺跡は仁淀川の分流、新川川の自然堤防上にあり昭和48年から51年まで4回の発掘調査がおこなわれ、縄文後期から中世までの複合遺跡であることがわかりました。遺跡は弥生時代が四層の砂礫層に分かれており、二千百年の昔、仁淀川は約百年に一回は大洪水をおこし、この地を襲っていたことがうかがわれます。

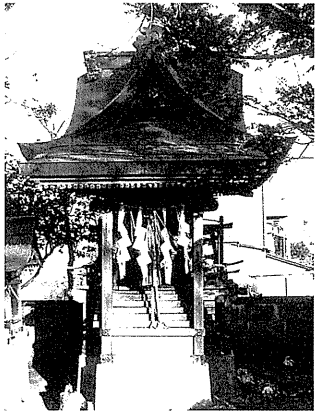
㊿種間寺

種間寺は、この地に漂着した百済の仏工たちが、帰国を祈って薬師如来を刻み寺を建立したことに始まると伝えられる真言宗豊山派の寺で、本尊は薬師如来。地元では安産祈願として信仰されている四国霊場八十八カ所の34番札所です。寺号は、空海が唐から持ち帰った五穀の種子をここにまいたことに由来するといわれ平安後期の作といわれる薬師如来坐像は、国の重要文化財に指定されています。



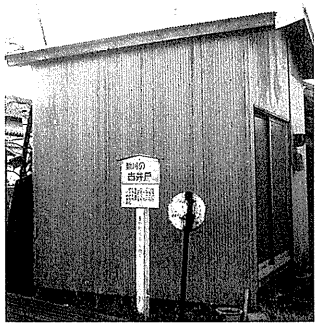
(71)大師堂

新川の仁淀川堤防の上に大師堂があり、昔のままの姿をもってなかなかの風情をかもしだしています。地元の人はお大師様に水害を守ってもらったり、病気から守ってもらうように祈っているということです。



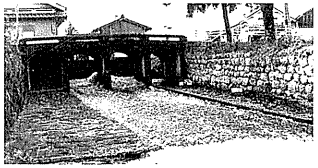
(72)野中神社

新川落しのすぐ下流、新川川のほとりにある祠が野中神社です。この神社は、新川落しの工事を完成させた野中兼山に感謝して、地元の人達が建てたもので、兼山の失脚後は一時春野神社と呼ばれていた時期があったということです。



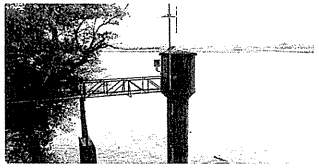
(73)新川の古井戸

新川川の内陸水路が完成したため、これまで水上運搬の拠点であった仁淀川河口の新居村甫淵は役を果たさなくなりました。そこで土佐藩は打撃を受けた甫淵の人々に新川への移住をすすめ、当時工事が困難であった井戸を掘って与えました。当初3ヶ所掘られましたが、現在残っているのはこの新川の古井戸だけです。



(74)新川の落とし

弘岡井筋と新川川の高低差を調整するために、野中兼山が設けたといわれるのが、この新川川の落としです。上流から川舟や筏によって運ばれてきた物資を、ここで積み替えて高知城下へ運んでいました。このように昔、弘岡井筋は灌漑用水路としてだけでなく輸送路としても重要な役割を担っていたということです。

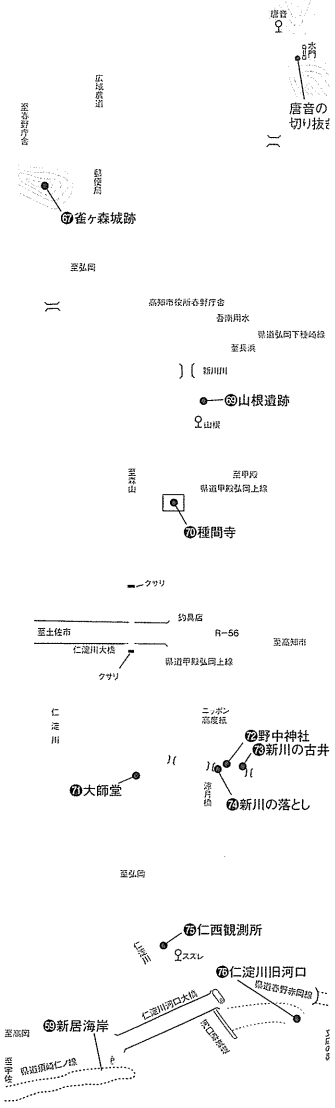


(75)仁西観測所

昭和21年12月21日に勃発した南海大地震による津波は宇佐町を中心に大きな被害を与えました。当時でも主要な港湾には自記水位計が設置されていましたが、津波の直撃を受けて記録がとれていませんでした。幸にもここ仁西観測所は直撃を免れて地盤沈下量1.2mという数値が測定でき、このデータにより地震後の復旧工事が行なわれました。

(76)仁淀川旧河口

仁西地区では、台風の余波等によって仁淀川の河口が閉され、空に太陽が輝く時、田畑が浸水の目にあうという、いわゆる「晴天の洪水」になることがありました。上の写真は河口閉塞時に仁淀川が文庫の朶付近に流れ出している貴重な写真ですが、現在では河口導流堤が完成し、もう見られない現象です。



物部川 MONOBE RIVER

剣山系の白髪山に源を発し、土佐湾にそそぐ物部川は、
古くは香我美川（鏡川）ともよばれ、
香美郡とよばれていた郡名と関係があるといわれています。
〝物部川〟の名前の由来には、物部氏や物部郷、物部庄と関連しているという説や、
香我美川（鏡川）の下流を物部川とよんでいたのが、
いつしか全体の名になったとする説など、多くの説があります。

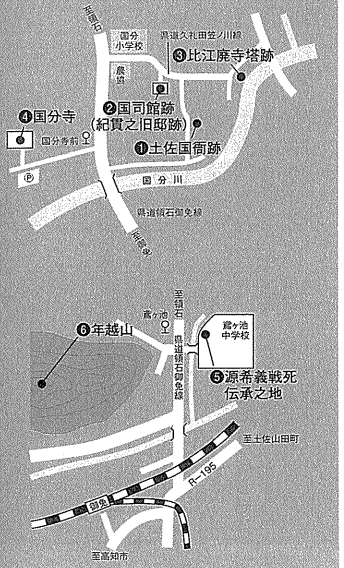
南国市
❶ 土佐国衙跡……24
❷ 国司館跡（紀貫之旧邸跡）
❸ 比江廃寺塔跡
❹ 国分寺
❺ 源希義戦死伝承之地
❻ 年越山
❼ 岡豊城跡……25
❽ 亀蔵ヤマモモの原木
❾ 禅師峰寺
❿ 坂本家初代の墓
⓫ 坂本家2代・3代の墓
⓬ 頌徳碑（吉川類次）……26
⓭ 稲生石灰山
⓮ 徳右衛門の碑
⓯ 掩体
⓰ 大湊

香美市
⓱ 土佐打刃物……27
⓲ 谷重遠（秦山）の墓
⓳ 須江野の供養碑
⓴ 野中神社
㉑ 八王子宮
㉒ 山田城跡……28
㉓ 春野神社
㉔ 物部川合同堰
㉕ 夢野温泉
㉖ 山田堰跡
㉗ 鏡野公園
㉘ 龍河洞……29
㉙ 舟入川
㉚ 津野親忠の墓
㉛ 野中兼山終焉の地
㉜ 物部川下流統合堰
㉝ 堰留神社

香南市
㉞ 兼山三又……30
㉟ 大日寺
㊱ 紀夏井邸跡
㊲ 三宝山
㊳ 香宗我部城跡
㊴ 宝鏡寺跡
㊵ 須留田八幡宮……31
㊶ 野市下井川
㊷ 深淵の半四の墓
㊸ 明治25年の大洪水の記念碑
㊹ 深淵神社
㊺ 頌徳碑（村田忠三郎）
㊻ 安政地震の碑……32
㊼ 玉錦三右衛門の墓
㊽ 無人島長平の墓
㊾ 土御門上皇仙跡碑（月見山）
㊿ 岡本弥太の詩碑
(51) 住吉海岸（枕状溶岩）
(52) 手結港

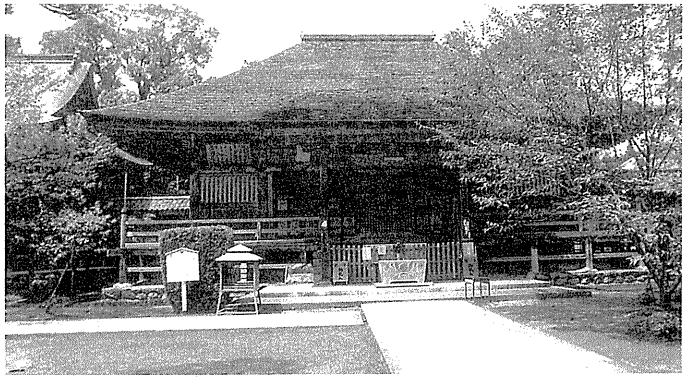
写真　物部川源流　香美市物部村奥物部

南国 NANKOKU



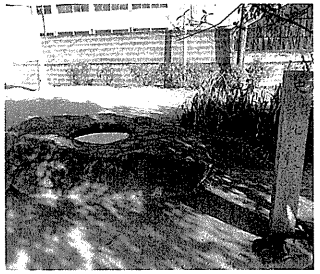
❶土佐国衙跡

国分川の扇状地に位置している奈良・平安期の土佐国府跡は、現在田園地帯になっており正確な国府域・国衙の規模・位置関係などは不明ですが、「内裏」「国庁」「府中」など国府関連の小字が残っています。昭和52年から十数回の調査が行われましたが、国衙域と断定できる遺構は発見されず、今後の本格的な発掘調査の成果が期待されます。



❷国司館跡（紀貫之旧邸跡）

国府域の北部、田圃にかこまれた小公園が「土佐日記」で有名な紀貫之邸跡と伝えられているところです。貫之は延長8年（930）から承平4年（934）まで約4年間土佐国司をつとめました。現在邸跡には天明5年（1785）に歌人尾池春水が建てた「紀氏旧跡碑」をはじめ、高浜虚子の句碑などが建っています。



❸比江廃寺塔跡

国分寺建立以前に建てられた土佐最古の寺院であるといわれ、正確な寺の名が不明であるため地名をとって比江廃寺とよばれています。心礎を中心とする多くの礎石が残っていましたが、江戸時代後期に国分川の改修工事などに使うためにほとんど持ち去られ、現在は塔心礎一個が残っているだけです。

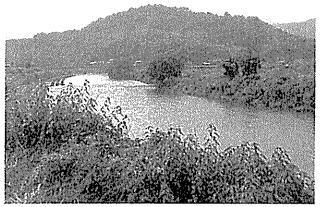
❹国分寺

国分寺は、天平13年（741）に聖武天皇の勅命により諸国に創建された国分僧寺の一つと伝えられる真言宗智山派の寺で、本尊は千手観音。四国霊場八十八カ所の29番札所です。金堂ともよばれる本堂は、永禄元年（1558）に長宗我部元親が再建したもので、平安初期の作といわれる梵鐘・平安後期の作といわれる木造薬師如来立像・鎌倉期作といわれる木造薬師如来立像とともに国の重要文化財に指定されています。

❺源希義戦死伝承之地

❻年越山

JR後免駅のすぐ北側にある小山が、源希義の戦死したと伝えられる年越山です。希義は源頼朝の弟で、土佐に流され介良に住んでいました。治承4年（1180）に兄頼朝が兵を挙げると希義もこれに従い、親交のあった夜須行家を頼って夜須城へと走りましたが、この年越山付近で平家方の諸池氏・平田氏の軍に追撃をうけ討たれました。希義が戦死したところは、年越山の東端に近い水田の中であったといわれ、鷗ヶ池中学校の校門を入ってすぐ左側に源希義戦死伝承之地の標柱が建っています。



⑦岡豊城跡

岡豊山にある中世の城跡で、構造・規模において土佐を代表する平山城です。築城年代は不明ですが長宗我部氏代々の居城で、永正5年（1508）19代兼序の時に本山・山田らの諸豪族に攻められ城は落城しました。しかしその子国親が幡多の一条氏を頼り、成長したのち長宗我部家を再興し、国親の子元親がこの城を拠点として四国を制覇しました。

⑧亀蔵ヤマモモの原木

高知県の県花"ヤマモモ"。そのヤマモモの中でも島田亀蔵（1807～1863）が発見し繁殖につとめた亀蔵ヤマモモは果形が大きく甘味が強いのが特徴で、"ヤマモモの王者"といわれています。現在その原木は、亀蔵の子孫島田家の山の中に現存し、幹回り約1.5m、高さ約10mあり樹齢は200年をこえているといわれています。

⑨禅師峰寺

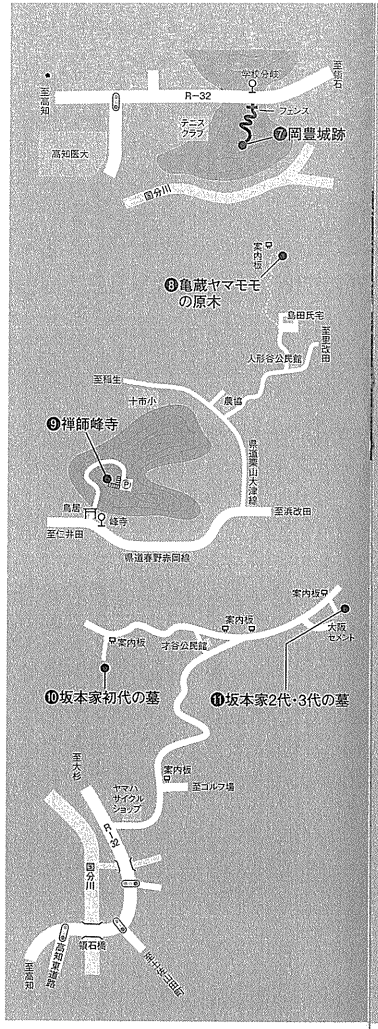
禅師峰寺は、大同2年（807）空海が開創したと伝えられる真言宗豊山派の寺で、本尊は十一面観音菩薩。四国霊場八十八カ所の32番札所です。藩政時代には歴代藩主が参勤交代などで出航する時、必ずこの寺の本尊に海上の安全を祈願したといわれます。鎌倉期作の木造金剛力士立像2体は国の重要文化財に指定されています。

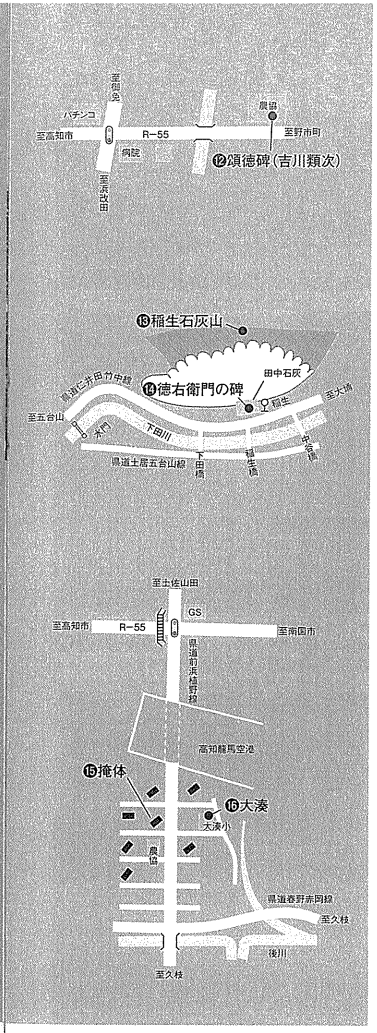
⑩坂本家初代の墓

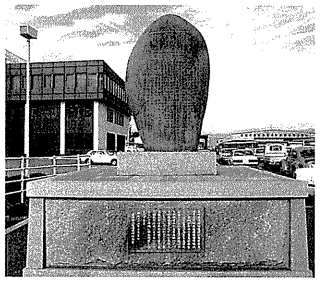
坂本家の先祖は、近江坂本の明智光秀の一族だといわれ明智氏滅亡のころ坂本家初代となった太郎五郎が土佐へ逃れ、この才谷村に住んだと伝えられます。墓はこんもりとした木の間にあり、石室式で観音開きの石扉の中に、太郎五郎の石碑が祀られています。

⑪坂本家2代・3代の墓

南国市才谷にある坂本神社の中に、坂本家2代彦三郎・3代太郎左衛門の墓があります。才谷村に住んでいたのはこの3代太郎左衛門までで、このあと4代八兵衛のときから高知城下に移り、質屋・酒屋などを始めて「上町に才谷屋あり」といわれるほどの豪商となりました。その子孫が幕末の風雲児坂本龍馬です。

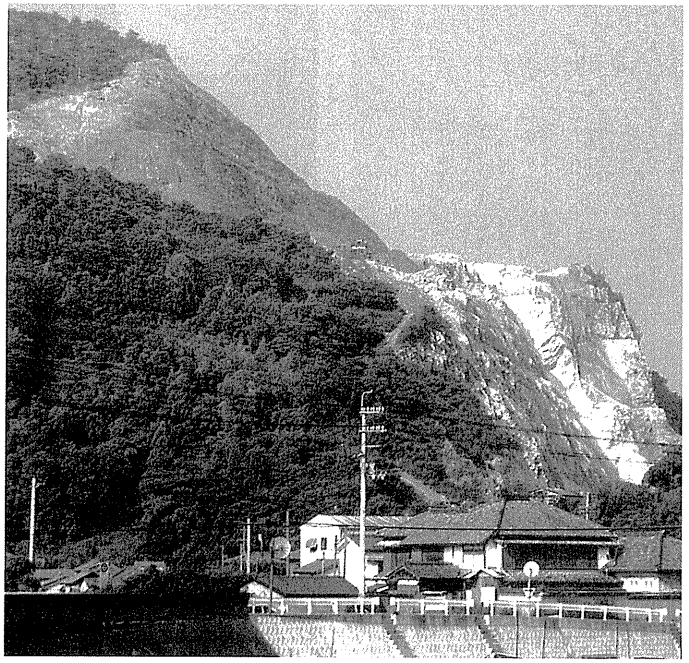






⑫頌徳碑（吉川類次）

"土佐はよい国、南をうけて、年にお米が二度とれる"とよさこい節に歌われている米の二期作の恩人が、この吉川類次（1858～1927）です。二期作は藩政時代からありましたが、栽培技術や品種の問題があり、次第に下火になりました。しかし研究熱心な類次は5年間の歳月を費やして明治32年（1899）に衣笠早稲という品種を作り、香長平野を中心に二期作を大きく発展させました。



⑬稲生石灰山

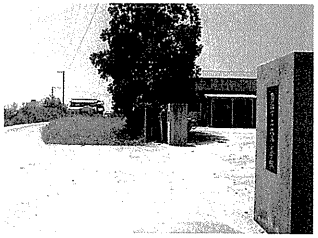
石灰は昔から、紙・鰹・珊瑚とともに土佐の重要な産物。この稲生で本格的な石灰製造が始まったのは享保15年（1730）のことです。一時衰退しましたが、阿波から来た徳右衛門から石灰焼きの新しい方法の伝授をうけ、その後石灰を稲の肥料として農家へ普及させることに成功してから、生産量が飛躍的に伸びました。

⑭徳右衛門の碑

土佐石灰製造の大恩人がこの石灰頭司徳右衛門です。徳右衛門は阿波の人で、旅の途中この地で病気になった時土地の人に助けられ、その事に感謝して石灰焼きの新方法を伝授したと伝えられています。彼はそれまで石灰を焼いていた単孔窯を改良して、徳右衛門型の窯を築き石灰製造を軌道にのせました。

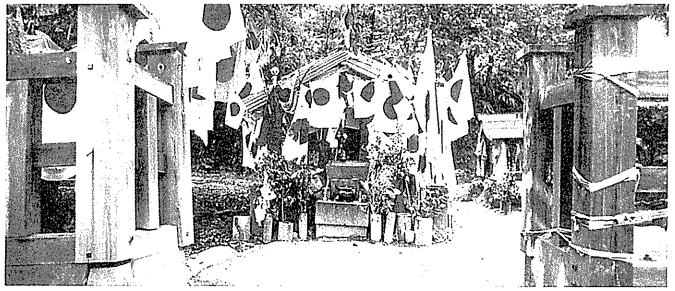
⑮掩体

太平洋戦争中に、現在の高知龍馬空港の前身である日章飛行場の軍用機の格納庫として使われていたのが、この掩体です。現在でもこの周辺に7ヶ所残っており、農家が倉庫がわりに使っています。



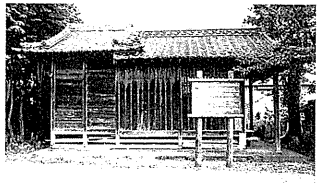
⑯大湊

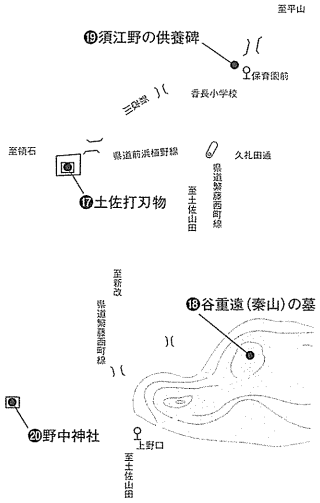
大湊は紀貫之の「土佐日記」に見られる湊名。貫之は大津より舟に乗り出発した後、10日間この大湊にとどまりました。その後の歴史史料類などには大湊の地名は無いので、確かな位置はわかりませんが、南国市十市・南国市前浜・香南市夜須町などが推定地としてあがっています。なかでも前浜説が最も有力で、写真のように大湊の名のついた小学校などもあります。

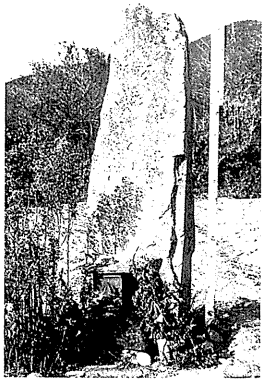


⑱谷重遠（秦山）の墓

重遠（1663～1718）は儒学者で秦山は号。江戸で山崎闇斎の門弟となり、帰国後藩の儒官に登用されました。その後無実の罪で土佐山田に蟄居を命ぜられましたが、その間も学問にはげみ、兼山以後途絶えていた南学を復興しました。現在墓には合格祈願の参詣者が多く、合格のお礼に奉納された小旗で墓石が見えないほどです。







⑲須江野の供養碑

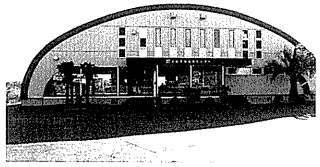
土佐山田町須江の水田の中に、地元の新改石（砂岩）を荒割りした自然石の古碑が一基建っています。これは慶長19年（1614）に建立された念仏供養碑で地元では時光石と呼ばれています。伝承によると長宗我部元親に誅罰し自刃した比江山母子ら7人の霊を供養するために建立された供養碑だと伝えられています。

⑳野中神社

野中神社は、土佐藩執政野中兼山の四女婉が宝永5年（1708）に建立したもので、お婉堂ともよばれています。婉は4歳の時に野中家改易により一族とともに宿毛に流され、40年後男系が絶えたあと許されました。その後、家宝の道具類を売却して兼山ゆかりのこの地に、野中家先祖代々と兼山に殉死した家臣を合祀した祠堂を建立したといわれています。

㉑八王子宮

八王子宮は、文明元年（1469）楠目城主山田氏が近江国東坂本より山田村の八王子に勧請したものと伝えられています。その後野中兼山が中井を開削する時に、神社床が水路の障害となったので現在地に移し再建したといわれ、参道を含めて約1.2haの境内は八王子公園として、春の桜見、夏祭りなど土佐山田町民の憩いの場となっています。

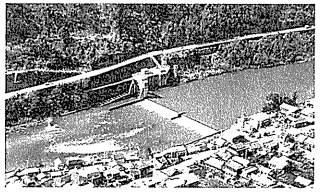


⑰土佐打刃物

土佐打刃物は、長宗我部元親が小田原征伐に出陣した時、相川の刀鍛冶職人を連れて帰り土佐山田に住まわせたのが始まりといわれています。現在でも伝統的な手打製作の技術が受けつがれ、打刃物といえば土佐山田といわれるほど、その名が知られており、写真の土佐刃物流通センターなどで展示即売されています。

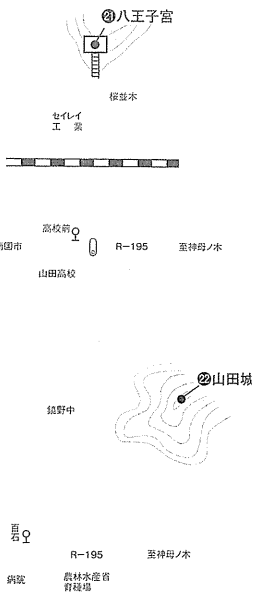
㉒山田城跡

山田城は、土佐山田町楠目にある中世の城跡で楠目城とも呼ばれています。築城年代などは不明ですが、戦国期土佐七守護の1人に数えられた山田氏の居城でした。山田氏は、永正5年（1508）に本山氏・吉良氏らとともに長宗我部氏の居城である岡豊城を攻め落としましたが、天文20年（1551）頃に長宗我部国親に攻められ滅亡しました。



㉔物部川合同堰

兼山造構の山田堰の老朽化に伴う取水能力の低下などにより、山田堰と父養寺堰の2堰を統合して昭和48年、山田堰上流約600mの地点に延長107mの合同堰が築かれ取水を開始しました。これに伴い、取水口の統合・機能的な配水・老朽した土水路のコンクリートによる改修などにより、これまでのような水不足は解消されました。

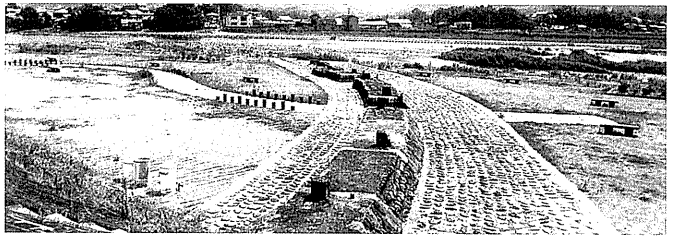


㉓春野神社

春野神社は、文化3年（1806）にいの町八田にある野中兼山を祭った春野神社の分霊を、山田堰を見おろすことのできるこの地に移して祭ったものです。春野の名の由来は、兼山の乳母の名であるとも、兼山に「糸流し堰」を教えた老婆の名だともいわれていますが、春野は墾野だとする説が一番的を得た考え方のようです。

㉕夢野温泉

夢野温泉は物部川合同堰の上流にあり、ゆったりと流れる物部川に面した一軒家です。ここの湯は硫黄泉で、神経痛、リューマチ、皮膚病、糖尿病等に効くといわれています。また春の桜・秋の紅葉など自然美にも恵まれており、物部川での川釣り、川遊びなども堪能できます。

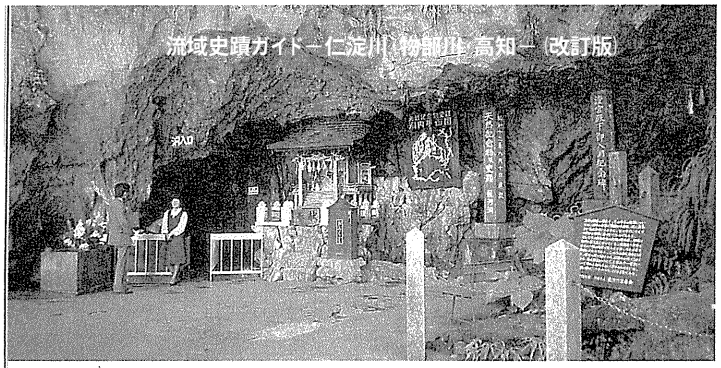


㉖山田堰跡

山田堰は、野中兼山が寛永16年（1639）着工し、兼山の死の翌年寛文4年（1664）まで26年を要して築いたものです。湾曲した斜め堰として有名で、その合理的な構造により多少の修復をするだけで300年以上もその形を保持しました。物部川合同堰の完成に伴い、堰の一部を残して撤去され、現在は公園として整備されています。

㉗鏡野公園

鏡野公園は昭和53年に県内で4番目の都市公園として設置され、同年5月21日には天皇陛下をお迎えして植樹祭のお手まき行事が行われました。また公園は中央の道路で2つに分かれており、東側は運動場を中心としてレクレーション向に整備され、西側は池を中心として樹木・花木が植栽され、自然と楽しめるように整備されています。

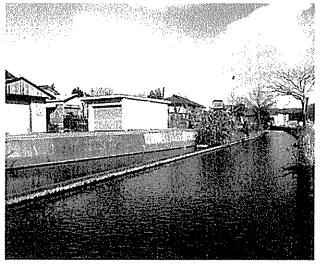


㉘龍河洞

龍河洞は、古くから存在の知られていた石灰岩の鍾乳洞で、昭和6年に中学教諭山内浩氏らが洞穴内を探険して以後、調査が進み本洞・支洞合わせて4km余りの長さであることがわかりました。また東本洞には、弥生時代後期の遺跡があり、現在探勝コースとして開発され、季節を問わず多くの観光客が訪れています。

㉛野中兼山終焉の地

奉行職として約30年間土佐藩の発展のために尽した野中兼山は、他の家老たちの策略によって寛文3年(1663)7月に政権の座を追われました。その後同年9月に兼山の事業に感謝する人たちの住んでいる舟入川のほとりのこの地に住居をかまえ、12月に急死するまでの三ヶ月間を過ごしたと言われています。



㉙舟入川

舟入川は、灌漑用としてだけでなく、物部川上流域と高知城下を結ぶ物資の輸送路を兼ねて造られた人工用水路で、野中兼山が万治元年(1658)に着工し同3年(1660)に完成しました。兼山は山田堰からこの舟入川の他に、上井・中井・父養寺の灌漑用水路を作り、下流の野市上井・下井を合わせて約2300haの新田を開発しました。

㉜物部川下流統合堰

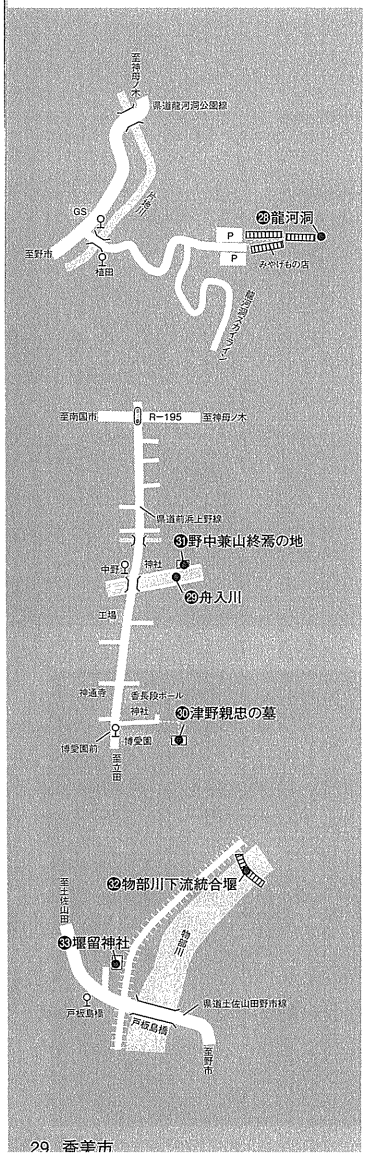
昔の物部川には、上流から父養寺堰・山田堰・少し下って野市上井堰・野市下井堰・田村堰・久枝堰・吉川堰・物部堰の八堰がありました。昭和25年にこの八堰統合が計画されましたが、水量確保の不安から実現しませんでした。そこで早期統合を望んでいた下流の六堰を先に統合する事になり、総工費1億2千万円をかけて野市上井堰に統合し、昭和42年完成しました。

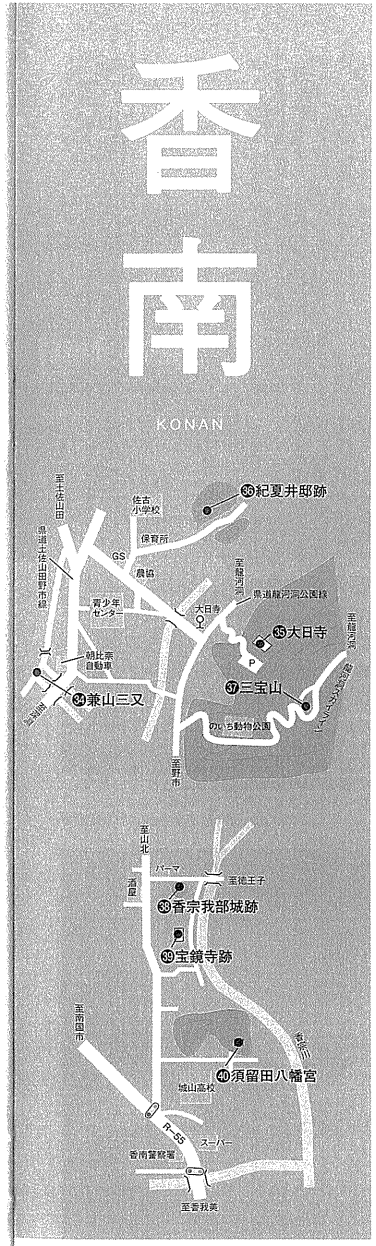
㉚津野親忠の墓

親忠(1571～1600)は長宗我部元親の三男。高岡郡姫野々城の城主津野勝興の養子となり津野氏を継ぎました。しかし元親の長男信親が戦死すると、家督相続の問題に巻きこまれ、元親により香美郡岩村(当時)に幽閉された後、慶長5年(1600)9月に家督を継いだ4男盛親によって切腹させられました。

㉝堰留神社

堰留神社は昔、物部川の洪水が大岩によってせきとめられたことにより洪水の被害を免れた人々が、その岩を神と崇め、磐座として祀ったのに始まると伝えられます。祭神は堰留神、石留神。文化12年(1815)7月の洪水により社殿が流失し、同年10月に再興されたという記録が残っています。





㉟大日寺

大日寺は、行基が開基し空海が中興したと伝えられる真言宗智山派の寺で、本尊は大日如来。四国霊場八十八カ所の28番札所です。明治4年(1871)廃寺となりましたが同17年(1884)に再興されました。本尊の木造大日如来坐像と木造聖観音立像は、ともに平安後期の作で、国の重要文化財に指定されています。

㉞紀夏井邸跡

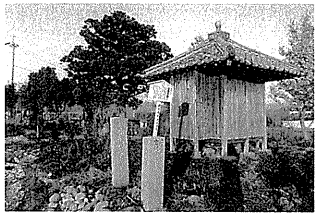
紀夏井は平安時代前期の官人で、貞観8年(866)の応天門放火事件により、緑座の罪で土佐に流されこの地に住んだと伝えられています。医薬の心得があり、薬草を集めて多くの病人を救いました。また、非常に親孝行で、父母の供養のために建てた父養寺と母代寺の寺の名は、現在でも地名として残っています。

㊱香宗我部城跡

香宗我部城は、野市町土居にある中世の城跡で築城年代は不明ですが、中世から戦国期の土佐の有力な豪族である香宗我部氏代々の居城でした。大永6年(1526)香宗我部親秀の時代に安芸氏に攻められ、親秀の子秀義が戦死しましたが、長宗我部元親の弟親泰を養子に迎え危機を脱し、それ以後長宗我部氏と運命をともにしました。

㊲三宝山

三宝山は、金剛山とも呼ばれている野市町のほぼ中央部に位置する山で、古くから山頂付近の石灰岩の一部から化石が産出することが知られています。現在は龍河洞スカイラインが通り、国道55号線と龍河洞を結ぶ観光ルートとして整備され、山頂からは香南市の町並みを一望できます。

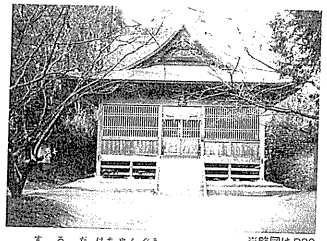


㊴宝鏡寺跡

宝鏡寺は香宗我部氏の菩提寺として野市町土居のこの地にあった寺で、開創年代は不明ですが文禄元年(1592)に没した香宗我部親泰が開基したと伝えられています。明治4年(1871)に廃寺となり、現在は観音堂・祇園社を残すだけになっていますが、観音堂の付近には香宗我部氏歴代の墓や重臣たちの墓があります。

㉞兼山三又

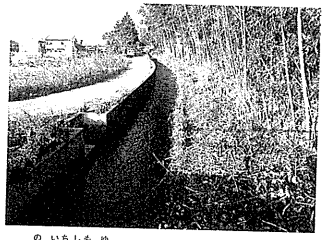
兼山三又は、野中兼山が野市を開拓するために苦心して作った分水の地です。町田堰より野市上井を通って来た水は、この三又で十善寺溝・町溝・東野溝の三水路に分かれ、600haにおよぶ新田を開発しました。現在でも三又は兼山掘さく当時の原形を残しており、山田堰の廃止された今、物部川では唯一の兼山の遺跡です。



※略図はP30

㊵須留田八幡宮

須留田八幡宮は、赤岡町の北部須留田山にある神社で、現在ある社殿は文化4年（1807）に再建され、それ以後補修を加えたものだといわれます。また幕末に赤岡に滞在した町絵師金蔵（絵金）の芝居絵が奉納されており、現在でも7月14日の夏祭りの宵宮には、境内や赤岡町本町通りに並べられています。

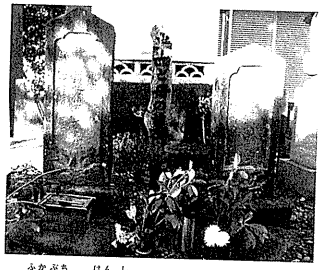


㊶野市下井川

野市下井は、野中兼山が作った最後の水路だといわれ、寛文4年（1664）に完成しました。兼山は、初めは野市上井川だけで野市全域を灌漑する計画でしたが、上井川だけでは下流の下井地区が水不足になるので、それを補うために作ったといわれ、この野市下井により新田230haを開発しました。

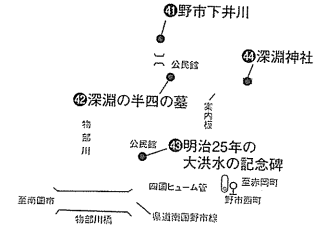
㊹深淵神社

深淵神社は、物部川の左岸、野市町西野と深淵の境にある通称十善寺に鎮座する神社です。観請年代は不明ですが古くは深淵権現ともよばれ、深淵村にありました。しかし物部川の洪水で社殿が流失したため、寛文年間（1661～1673）にこの十善寺に移して再建されたと伝えられています。



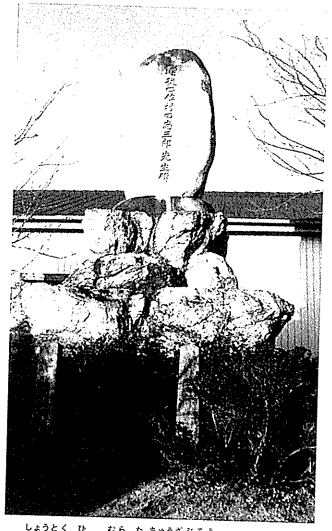
㊷深淵の半四の墓

半四は江戸時代初期の人といわれ、どくれ者でしたが、人の心情をくすぐるユーモアのある明るく愉快な男で、その意表をつく行動は今でも"鎌をとぐ"などの逸話となって伝えられています。土佐には半四に似た"どくれ"が他にも何人かいますが、年代的にも一番古く、半四は"どくれ"の元祖ともいえます。



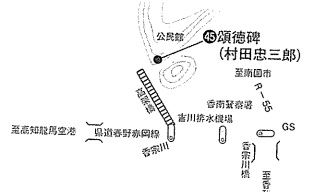
㊸明治25年の大洪水の記念碑

明治25年（1892）7月23日に高知市付近に上陸した台風により物部川流域も大きな被害をうけました。23日から26日まで4日間続いた雨で物部川は大増水し、特に左岸の深渕方面の被害が大きく、深渕神社が流されそうになり、氏子総動員で現在地に移転したといわれています。この記念碑にはその洪水の事が刻みこまれています。



㊺頌徳碑（村田忠三郎）

忠三郎（1840～1865）は、郷士の村田新十郎克亶の次男として生まれ、剣を江戸の千葉重太郎に学んだのち、兄とともに武市瑞山ひきいる土佐勤王党に加盟しました。その後同志とともに江戸に出て山内容堂の側役などを勤めましたが、勤王党の弾圧により投獄され藩吏井上佐市郎殺害の罪で慶応元年（1865）に処刑されました。

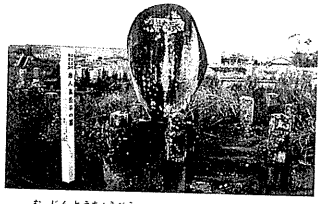


㊻安政地震の碑

安政元年（1854）11月5日に大地震があり、その時の大津波によって、宇佐町などは死者70余人を出しましたが、ここでは皆山へ逃げて死傷者はなかったといわれています。写真は飛鳥神社の境内にある石碑ですが、地震の時の様子や、津波の時の教訓などが碑文として細かく刻み込まれています。

㊼玉錦三右衛門の墓

玉錦（1903～1938）は土佐の生んだ初の横綱。大正8年（1919）二所ノ関部屋から初土俵を踏み、はじめはボロ錦、ドロ錦などといわれていましたが、生来の負けん気と熱心な稽古で横綱の栄冠を手中にしました。幕内通算9回優勝（横綱になってから4回）しましたが昭和13年に急性盲腸炎のため現役横綱のまま36歳の生涯を閉じました。

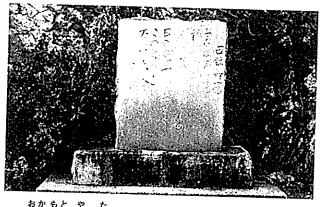


㊽無人島長平の墓

長平は、香南市岸本の舟乗りで、天明5年（1785）に奈半利から帰る途中暴風のため難波し、14日間の漂流の後、無人島に漂着しました。初めは5人いた仲間もつぎつぎに死んで長平だけになりましたが、その後漂着した人と協力して小舟を作り無人島を脱出しました。岸本に帰ったのは13年目の寛政10年（1798）だといわれています。

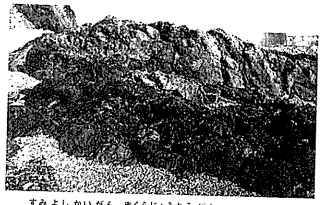
㊾土御門上皇仙跡碑（月見山）

承久の乱（1221）の後、土佐国幡多に配流された土御門上皇が、阿波の国へ移ることになり、その旅の途中この地で休憩し月見をしたと伝えられます。その時「鏡野やたが偽りの名のしみて、こゆる都の影もうつらず」の歌をよみ旅の憂いをなぐさめたといわれます。現在この月見山は、こどもの森として整備されています。



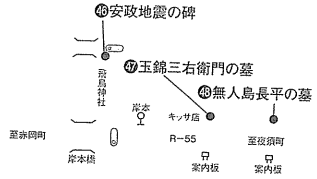
㊿岡本弥太の詩碑

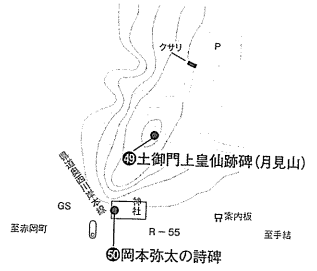
岡本弥太（1899～1942）は宮沢賢治と並び称される詩人。高知商業学校を卒業後、神戸の鈴木商店に勤めましたが、25歳のときに高知に帰り小学校の代用教員になりました。詩作は神戸にいた時に始め、その後昭和初期の日本詩壇で活躍しました。昭和7年に発刊された詩集「瀧」の中の詩「白壮丹図」が月見山のふもとに高村光太郎の書で刻まれています。

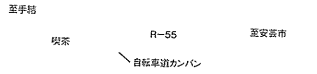


51住吉海岸（枕状溶岩）

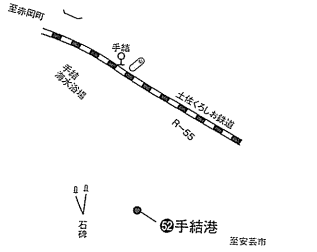
この住吉海岸には、約3000km離れた赤道付近の海底で作られた枕状溶岩があります。この溶岩は1億3000万年前に噴き出して、海洋プレートの運動により年間数cmの割で3000kmを運ばれ、ここにたどり着いたものです。このような枕状溶岩は各地にありますが、その1つがこの住吉海岸にある枕状溶岩です。







51 住吉海岸（枕状溶岩）



52手結港

手結港は、わが国最初の掘り込み港として野中兼山が計画し、慶安3年（1650）に試掘をおこない、承応2年（1653）に完成したといわれています。兼山は港口が砂浜なので、防砂堤を築造し漂砂から守るように設計しましたが、明治年間の手結港改修の時にこれを無視して防砂堤を短くしたため、港口はたちまち砂で埋められました。